愛國婦人

愛國婦人會機關

愛國婦人會の目的は遺族及廢兵を救護するにあり

每月五日二十日發行

一部金參錢一ヶ月金六錢半年分參拾六錢全國無遞送料
廣告料一行六拾錢
本號全部禁轉載
發行所　東京麴町區（牛ヶ淵公園）愛國婦人發行所
發行兼印刷人　山澤俊夫
編輯人　手島益雄

電話番町五百二十番

◎本號には愛國婦人會韓國支部總會式場光景を寫眞版附錄とす

社説

虚禮虚飾の弊

洋の東西を問はず、時の古今を論ぜず、婦人の第一缺點とする所は、虚榮心に富むことなり、其の身分をも顧ずして兎角に美服を着けたがり、其の爲しつゝある事業の性質の如何なるものなるかをも稽へずして、兎角に虚禮虚飾所謂見え坊を張りたがるは、婦人共通の天性なりと云はゞ云へ、直接間接に、國家の進運を妨ぐるものなり、過去の歴史を繰り返せば、この實例は幾らもあるなり。

然るに我邦の婦人は、古來能くこの虚榮の心を矯めて、總てに於て質素を旨とするの美風あり、近くは我が愛國婦人會の如き、殆ど六十萬人に近き婦人の會員を有しながら、未だ曾て他に指彈さるゝが如き虚榮に流るゝの婦人なく、この誇るべき美風の凝つて三十七八年役に際し、軍人並に其の遺家族に對して躬行實踐、滿腔の熱誠を獻げて盡したるを以て見るも明らかなる事實なり、とは云へ、これは國民一般の心の引締りたる時のことなれば、咽喉元過ぐれば熱さを忘るゝの類比にて、平和の時代に於ける會員の、猶ほ能くこの美風を遵守し居るや否やは、愛國婦人會が世界罕に見る婦人の大なる團體なる丈け、其の事業の性質が性質なる丈け、大いに世の注目して措かざる所なりとす、而も吾人は我が會員の、總裁殿下平素の御趣旨を奉じて、戰時平時の差目なく、能くこの美風を保持し、戰後有り勝ちの奢侈の風潮を抑制して、以て一般婦人の模範となり、國家をして益々隆昌ならしむべく、其の責に任ずるの覺悟あることを信ぜんと欲す。

されば支部又は幹事部等に於て總會を擧行する場合の如きは、殊にこの弊に陷り、多額の冗費を費し、身分に相應しからぬ美服を着けて世の嗤笑を招かざるやう勉め、誠意質素を旨となし、虚禮虚飾を廢し、本會をして益々光輝あらしむると共に、我邦婦人の美風美徳を愈々發揮せられんことを、現下會員大募集の秋に際し、如上の主旨をもて岩倉會長より各支部に對して訓示を發せられたる、實に其の時宜を得たるものと謂ふべし。

韓國支部總會に於ける伊藤侯爵の演説

余は玆に日本婦人が日本社會に與りし事柄に付所感を述ぶべし、抑も何れの國に於ても國々の風俗習慣ありて東洋の婦人は一家を治め、所謂男は外に、女は内を守るの風習あり、然かるに獨り日本婦人は稍や外に現はれ、女子も亦男子を助けて社會の事に携はるに至れり、蓋し外に現はれ社會の爲に働くとは東洋從來の風俗には絶てなき所にして、全く歐米晩近の進歩なりとす、日本に於ては三十九年前の婦人は社會の事業に携はりたるとなく、公の席にも親類間の交際の外殆ど出席せざる所なりき、今の婦人社會における事業に就き予が關係せる事實二三を陳述せんに、予は明治十五年憲法制度取調の勅命を奉じて歐洲に至り、主として獨墺伊の間にあり、外國の帝室をも訪問し、各皇后にも謁見して親しく其社會の事業に盡瘁せらるゝ實情を目撃したり、獨逸にては現皇帝の伯母に當るお方は學校病院事業に頗る熱心にて、其費用は自分の得給へる帝室費用の俸給より支出せられ、歐洲の風俗なる銀婚式金婚式に各方面より捧呈せる金銀製の物品をば、凡てこの費用に投ぜれ、また女子學校を創立し給ひ、時々自ら馬車にて臨幸せられ、其教場は云ふ迄もなく庖厨等をも巡覽あり、臺所の清潔庖丁の錆迄も御注意あらせられ、校長には其の信用ある婦人を置きて監督せしめ、種々御相談あらせらるゝ事も少なからず、時々簡單にて清潔を旨とせる食卓に生徒と共に會食せらるゝことさへあり、又病院も自然監督の下におかれ時々自ら病室を見舞はるゝ次第なるが、余が在留中熊本縣人某の入院し居りしを陛下には親しく慰問あり、遠國の日本人が予の病院に入院し居るは誠に喜ばしき事なりとて、三個の蜜柑を籠に入れて贈與せられたり、當人は固より聞くもの皆深く感動せる所なりき。

こゝに揭げたるは山梨支部第一回總會に際し紀念の爲め同支部に於て發行せる繪ハガキなり

又露國に往て見ると、同國は土地廣漠にして人民多きも、沃土乏しきが故に貧民少からず、從て棄兒多くして莫斯科には五千人餘も收容せる棄兒院あり、これが總裁は露國代々の皇后にして、其建築等は頗ぶる壯大を極め、設備も甚だ完全し居りて、皇后陛下の事務を執らるゝ事務室もあり、其養育は自己の信ずる婦人を以て監督せしめ、中には相當に年長の女もあるが、右は軍人等の遺兒にして婚姻する迄教養せらるゝなりと云ふ、棄兒受取の方法等は最も行屆きたる者にて、何人も棄兒を爲すに其名前を告知するは恥とすべき處なるに據り、これを遺棄する穴ありて其處に棄兒すれば姓名も質されず、一片の受取書を交附せらる、而して右には番號を記入しあれば、後日親にして其兒を尋ね見んと欲せば番號に據りて直に會見し得る次第なり、予が遊歷當時の英國皇太子妃、今の英國皇后陛下は御手製の物品を販賣せしめ、其利益を以て貧民救助の資に宛てさせらるゝあり、又勞働者保護の方法については感心の方法を設けありて、父母は毎日勞働に出づる序を以て子供を學校に預け置き、夜に至れば連れ歸らしむる規則なり、是れ晝間は子供を棄置き勞働に從ふは止むを得ざるとなれども、親子の情愛は飽迄も喪失せしめざるの趣意よりして、夜間は家に歸らしむるものなりと言ふ、而して其學校は貴婦人をして最も親切に教育の事に從はしむるが故に、餘りに貧困ならざる者も入校を望む者多きより、貴婦人自ら出張して果して貧困なるや否やを檢する程なりと、此等の事例は歐洲に於て一々列擧に遑あらざる事なるが、予は歸朝の後これを我が皇后陛下に親しく上申する處ありしに御感斜ならずして、遂に華族女學校并に慈惠醫院の創立を見るに至れり、而して慈惠醫院は高木兼寛主任として其經營を爲し來りしが、單に施藥に止らず入院施療をも爲すを要し、華族、大臣、紳商等の助力に依りて基金を作り、孤兒院及慈惠醫院に支出の方法をも設けたり、又日本赤十字社の事業は今は已に故人となりたる佐野常民等の創業に係り、最初博愛社の設けありしが、予の十五年歐洲より歸朝して宮內卿と爲るやこれが助力の依賴あり、其の總裁は故有栖川宮殿下なりしが、當時予は其名前の狹隘なるを思ひ、これを萬國共通一親同仁の主義に基く赤十字社と爲すべしと慫慂したりき、然るに當時は其十字の耶蘇敎に因む宗敎上の嫌惡より如何ならんと疑惑を懷く者もありしが、赤十字は單に初の會合地たる瑞典ゼーネーブ州紋を採用したるに過ぎざれば、決して偏狹の意味あるに非ずとなし、遂に日本赤十字社を創立したりき、我が皇后陛下にも歐洲貴婦人の社會上に於ける實況を聞しめされ、社會の事業に御心を注がせらるる御事と爲り、以來學校の奬勵に伴ひて社會の交際頻繁と爲り、交際の頻繁は又社會の事業を誘導するに至れり、今の愛國婦人會も均しく慈善事業にして、婦人のやさしき慈善の心が社會の上に活動する者と云ふべく、是れ最も婦人至當の事業にして、此事たる特り日本婦人に止まらず、韓國貴婦人諸子も亦た卒先誘導せらるゝに於ては、其國の進歩を助くる事必ず尠少に非ざるべし、尚韓國婦人は單に慈善の事業のみに止まらず、社會必要の事業に付ても關係すべき事甚だ多く、例へば工業上に於ても女工を要する事多多あるべし、若し此等の事業に向つて活動するに至らば、其國家を益すること甚だ大なるべしと信ず。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

論叢

日本婦人の位置

文部次官 澤柳政太郎

▲三從說の美點 歐米人が日本婦人の位置の低いのは、三從說を以て卑しめた結果だと思ふて居るのは甚だ間違つた觀察である、併し服從と云ふことを絕對に知らぬ歐米人の眼に斯く映ずるのは强ち無理なことではあるまいが、幼にしては親に從ひ、嫁しては夫に從ひ、老いては子に從ふと云ふことは、婦人の美德をしてますく發揮せしむる教訓である、一體日本は忠孝を重んずる國體であつて、國家家族に重きを置くところから、單り婦人のみでなく男子もまた服從の精神を養はれて居る、この點に於ては個人主義を主とする歐米人とは、餘程その傾向を異にして居るのである。

▲男子にも適應 三從說は單に婦人のみならず男子にも適應した教訓である、即ち幼にして親に從ふ如きは、男女共通の必要條件て、老いて其子に從ふと云ふは家長に從ふと云ふ意味て、男子と雖も老後隱居して子に家督を讓つた後は、家長に何事も任さねばならぬ、また嫁しては夫に從ふと云ふことは、決して盲從せよとの意味ではなく、却て溫良恭謙の美德を發揮せしむる教へである、男子同志の間でも人を凌ぐと云ふことは餘り宜しからぬことであるに、若し家庭に於て妻たる者が絕對に服從と云ふことを知らず、善惡によらず常に夫と意見を異にして議論を鬪はせ、男子を凌ぐ樣では、到底圓滿な家庭も作られず、また婦人としての本性にも悖ることかと思ふ。

▲裏面の勢力 自分の考へでは、古來日本婦人の位地は決して低くないと思ふ、只男子同等の教育を受けざる點だけが男子に劣るのみであつて、近時法律上女子の人格を認めたるを以て、假に日本婦人の位地が高まつたやうに新らしく感ずる人もあらうが、裏面に於ける婦人の勢力閨閫は實際强大なものである、例令ば子女の結婚等に就て、主になつてこれを定むるものは婦人である、斯かる場合に男子が强て自己の意見を貫かんとして婦人を壓制するやうなことは、特別の場合を除いては決してないことである。

▲血統を貴ぶ 蓄妾は婦人を卑しめたる行爲であると稱ふる人があるが、これも家族を本位としたる習慣から起つたことである、昔は家名の斷絕を以て非常なる不名譽、且つ祖先に對する孝道に背くものと心得、殊に日本は代々血統の絕えざるを是として居るから、正妻に子なき時は妾を置いたもので、決して婦人を卑しめ、婦人の人權を無視したる行爲とは云はれぬと思ふ。

田園生活の趣味

農學博士 橫井時敬

▲長壽と田園生活 人間の最も幸福なことは何んであるかと問へば、何人も健康と長壽であると答へるであらう、然るに前途多大の希望を懷ける青年が競ふて集合する都會の地は、田園の生活に比して人の壽命を縮むること十に對する二の割合である、世界の都市の內で人口の最も稠密を以て知られたる倫敦は、一坪に一人の割合て生活して居るが、吾が東京市は四坪に一人の割合である、これに反して日本の田舍では三千坪に五人しか生活して居らぬと云ふ比例であるから、都會の生活よりは田園の生活の方が長壽を保つ所以である。

▲品性の高尚 一度英國に遊んだ者は、必ず英國人が紳士的品性を持つて居ることに深く感ずるてあらう、日本の如く只絹帽子にフロックコートを着けたものが紳士と認めらるゝのとは大いなる差て、英國では斯の如き立派な品性の修養を經たる紳士が、即ち國家の中心となり、社會の原動力となつて居るから、彼の國の社會道德の高きは決して偶然でない、然らば如何にして斯く揃ひも揃ふて立派な紳士が作り出されたかと云ふと、夫れには種々の原因もあらうが、田園生活が此品性を作る大部分を占めて居ると云はねばならぬ、彼の國の上中流の家庭は皆田舍に於て生活し、倫敦には只別莊を置く丈けてあつて、幼少の時から偉大なる天然に接し、無心の動植物を相手に遊び、清き空氣の中に育てられ、自然高尚なる品性を作ることとなつたのである。

▲生存競爭と動植物 人間の社會に生存する間は、絕へず競爭の爲めに力を盡すものであつて、人と善く交はり、人と謀り、人と談じ、二六時中人のみを相手とする生活は、自然品性が劣等となるのてある、故に都の人は田舍の人より人氣が惡いのである、併し若し此繁務の餘暇を利用して無心なる動植物に接するの機會を作つたならば何うであらうか、例令一瞬時でも精神を革新するの効力があるであらう、精神上の快感は即ち健康と品性を增進する基てある。

▲成功後の田園生活 青年のみが人生でない、業成り名遂げての後は都會生活も左程の興味を感ぜずして、夫れよりは鳥唄ひ花笑ひ、長閑なる野邊の淸き空氣のうちに生活することが懷しくなつて來るものである、故に老後の生活は田園に限ると思ふ、何時までも商賣や事業に引かゝりて齷齪として居る都住居の人々に、少しく田園生活の趣味を味ふ時期を與へたいと思ふ。

見落し給ふ勿れ

明治四十年宮中歌御會始御題は

新年松

と仰出されたり、依て我發行所は廣く我會員の詠進を求め、大口鯛二氏の選定を經てこれを取纏め詠進の手續を取計はんとす、規定左の通り

一 期限　十二月二十日限り
一 用紙　半紙
一 句數　三首限り
一 住所姓名及華士族平民の區別を認めらる可き事
一 附言　前記期限後は如何なる事情ありとも御斷り申し候につき左樣御了知有之度候

見落し給ふ勿れ

同居制と別居制と孰れが利なる歟

青山學院長夫人 本多貞子

▲婦人の位置 維新の革命は日本國に種々新らしき組織が出來ましたが、就中著しき事柄は婦人の權利の進んだことであります、維新前までは婦人の人格を認めず、恰も男子の附屬物の如く扱はれ、人てなくて品物の如く扱はれたものでありました、故に盛んに一夫多妻主義が行はれまして、婦人としては面目次第もない事柄が多くありましても、權利の無いところには主張も出て來らず、これに甘んじて居らねばならぬと云ふ憐れな境遇てありましたが、幸いなる哉今日の婦人には相當の權利を附與す可きことを男子の方面よりして主張せられ、社會もこれを是認するやうになりまして、法律でも成るべく男女同權に近いて來ました、從つて婦人が社會の表面に立つて活動すべき機會も出來、漸く一夫多妻の慣習も減して、一夫一妻の制となりかけましたと云ふことは、婦人の位置として大なる進境を覺ゆるのであります。

▲思想の衝突 今日の女子教育は、前述の如き思想の革命を通過して居りますから、勢い昔の女子教育と異なる點が澤山あるのであります、則ち絕對に自己の權利を認められず、品物の如く取扱はれて、これに甘んじて居らねばならぬと云ふ時代の生活を經て來た人と、新教育を受けた結果、自己の位置存在を自覺すると同時に多少社會の事柄にも通じて居る婦人とが混同して同棲するのでありますから、自然嫁と姑との間に隔意を生して來まして、家庭に不和を起すことは免れ難き現象かと思ひます。

▲今昔嫁較べ 昔の嫁と今の嫁と比べて見ますと、後者の方は前者より教育を受けて居る丈けそれ丈け進步が著しいやうに思ひます、新嫁が一家の主婦となつて働き出しますと、始めは多少の失敗もありますが、其失敗に早く氣がついてこれを再びするやうなこともなく、子女の教育から僕婢の扱ひまで、總て進步的態度を取りまして、家政の改善を計ることが出來ます、然るに新嫁が出來ても姑が嫁に家事を任さず、依然己れが一家を支配することとなると、失敗は少いか知らぬが、進步の狀態は見えません、のみならず嫁の方ては他動的になつて獨立的經營の才能を施すの餘地がなくなりまして、嫁は遂に發達せず、此氣風は延いて子供に遺傳することになります。

▲同居は不可 我身で我身の行ひが氣に入らぬ時がありますから、圓滿なる夫婦の間に於ても思想の一致せぬ場合が時折りあります、況んや姑と嫁との間、殊に新舊教育の差ある間に於ては、其衝突の起るは寧ろ當然てありまして、年寄と若い者とは趣味も嗜好も異つて居ります、故に私は從來新舊兩夫婦の同棲することを贊成致しませんので、倅も昨年結婚致しましたから、別居さして新夫婦の自由なる天地に於て自由なる發達を遂ることを希望して居ります、新家庭を組織するものは須く別居制を採ることが必要かと思ひます。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

きさらぎ

西村醉夢

骨のやうな森を渡る木枯の音だらう、もの凄い響が窓の雨戸を壓する如く走けて行くと、ランプの灯がゆら〳〵と波立つ、戸の破れから風が流れたのだ、寒さは寒し、夜は次第に更けまさつて淋しいのである。

二人は夜風の音に耳を傾けて、寒さうな顔をしてゐる。年若な一人が、想起したやうにつと火鉢の火をかきわけて、相手の顔をのぞきながら。

「居たのだね、矢張り」

「左樣」

と長い頤をしやくつて、煙草の煙をぷいと吹き出した。

「居たには相違ないが、如何にも不氣嫌な顔色をしてゐるから、僕も少々氣味が惡くなつた」

「如何したのでしやう」

とまたぷいと煙を輪に吹く。

「變ですね」

「如何したつて、問ふて見るけれども、矢張り頸垂れたまゝ默つて居る。とばたり涙を零すぢやないか」

「涙を、ぽたりと、泣いて居るのだ」

と相手は眼をしばたゝいた。

「突と立つて、直ぐ檬灯を消した、雨戸をがた〳〵さして居ると思ふ間なく、足音が寒天に響くぢやありませんか」

「寒天に、足音がね――」

「一言も云はないで、出て了ひましたよ」

「さうですか、默つたまゝ、彼の人がね」

と鳩のやうに、愛くるしい眼をぱちつかせて居る。

「暗い部屋の中に赤いものがある、それは火鉢ですよ、私は其れを抱へて、今に歸ることのやうに、待つて居ましたのですよ」

「一人でね」

「ところが」

「ところがと」

「夜は次第に更けました、目白の鐘が四つ鳴る、ああもう二時かなと思つて居ますと」

「歸りましたか」

「なか〳〵」

「ゑゝ」

と鳩の眼は一層うごき出す。

「とうとう、雪になつたのだ、戸外では木葉をすべる音がし出した、」

「寒いのにね」

「寒さは寒し、淋しくて堪らないから、灯を點けやうと、マッチを探した、その時だよ君」

「その時、池田君が」

「冷りと、觸る物があるのだ」

「ひやりと」

と、水を浴びせ掛けられたやうに、相手はぶるつと身を慄したのである。

最う彼れ之れ一年になるから、忘れて居る所も少なくないが、つとめて過去の記憶を喚び起した、今宵の話は此うである。

眞暗な部屋をあちらこちら掻き廻して、暫くのことでマッチを手探り當て、、ランプに灯を點した、部屋は戰場の如くかき亂されてゐる、蹴散のやうに本は書棚から喰み出て、平常愛誦の文學書はわけもなく屍をころがしてゐる。よく見ると、堆高い本の中から、ぴか〳〵光るものが半ば頭をのぞけてゐる、何だらうと手に取り上た、ひやりとする、短刀だ。何にするのだらう。

夜前の態度と云ひ、この部屋の亂雜と云ひ、又は拔身の短刀と云ひ、池田君を知れる者は、何人と雖ども驚かざるを得ないのである。池田君は我が畏敬する詩人だ、健實なる思想家だ、天上の高華の如き、高潔なる人格は常に推稱さるる所だつた、彼は藝術上の天才として天下に重きをなして居たと、同時に、篤實なる士君子として又重望されて居たのである。然るに、かかる椿事、少くとも池田君自身に取ては破天荒の大椿事である、その椿事があらうとは、深く池田君を知れる丈け一增驚異の念が強いのである、自分は少なからず驚いた。

其所には必ずや深い理由があるのだ、理由―理由とは何だらう、十年の親交ある自分に迄て秘して置く程の理由だ、少くとも池田君自身に取つては最大問題なのであらう、何んだか穿鑿して見度くなつた、人の秘密を探るのは一種の罪惡を犯す樣な心もせないではないが、友の大事とあれば對岸の火視することも出來ない、自分はノートを開いて見た、池田君は自身の苦痛を紙に訴へ、筆に哭するの癖があるからだ、果してある。

戀の神聖を汚す者は惡魔だ、愛すべきわが戀人はこの惡魔の掌中に翻弄されつつゐる神よ、神よ、

壓抑？死？

力なき戀、信仰なき戀、信仰なき戀は罪惡なり、戀は犧牲を意味す、

君よ人は欺くべし、神を如何せん、

君よ、靈の痛みに堪ゆべきか、

生？生？死？死―

怒つては筆をとり、悶えては書き、泣いては記したのであらう、字は悉く慄へて居る、自分はこゝまで讀んで、池田君は戀して居るのだと思つた、而もその戀は第三者の暴力の爲めに憐むべき最後を告げたることを知つた、次ぎの頁をはぐと、「やへ」と云ふ字が幾つとなく書いてある、云はずして、戀人の名たることは直覺出來る、「やへ」とは如何なる人か知る由もない、けれども池田君の天才を認め、高潔なる人格を思慕することに依て起つたとすれば「やへ」なる人は平々凡々たる女性ではあるまい、池田君が戀し、池田君を戀した人と思へば、又一種の尊敬を「やへ」なる人に拂はざるを得ないのである。

池田君は歸つて來ない、この一年間消息を知る人もない、無論作品を發表しやう筈もない、心ある人々は彼れ天才の沈默を非常に惜んだ、而し如何ともすることが出來なかつた、戀は明治の一天才を殺したのである。

＊　＊　＊　＊

「何時でしたか日はもう忘れて了ひましたが、何んでも日曜の午前十一時頃でした、九段坂を下りて飯田町の通りを橋の方へ行うとしますと、飯田町の教會からどや〳〵つと七八人男の群れが出ました、がつと列外に出た一人の男、それが池田君でしたよ、て私は話をしかけて見ますと、如何にも落着いた重々しい調子で話されました、矢張り雜司ケ谷の方に居られるさうですよ」

「教會へ、さうですか」

「バイブルをお持てしたよ」

「バイブルを、さうですか」

木枯の音はもうやんて、天地は靜に眠つてゐるらしい。

（をはり）

東西名婦傳

ヴイマー侯妃（下）

文學士　厚　篠川

アマリア侯妃は此の如くにして、自ら藝術自然を愛せしが、又他の之を好める人をも愛したりき、而して其の人を愛するや、位階人爵に拘はらずして、才德伎倆を重ぜり、其の人に接するや、毫も城郭の隔てを設けずして、常に春風の和氣を覺えしむ、人才は之れが爲めに其の宮門に集り、一日も慈眼に接するの遲きを恐れぬ、今煩を避けて一々姓氏を録せざるも、貧弱なる一小侯國にして、居然として、歐洲の文柄を握り、人をして當年のペリクレス盛時を追想し、其の地を流るゝイルム河を冠して、ヴイマーを呼ぶにイルム、アテンを以てせしめたるに見るも、其の盛なるを想ふべきなり。

一千七百九十三年、侯妃は其次子コンスタンチンを失ひ、超えて十年ヘルデルを失ひ、超えて二年又シルレルを失ふ、侯妃の悲哀譬ふるに物なし、蓋し侯妃の晩年は甚だ、平靜なる能はず、戰雲全歐の天地に漲り、カール亦人馬の間に出入す、後ヴイマーの普漏西に左袒するや、佛軍は國中に亂入し、抄掠殆んど空しからんとせり、侯妃は孫姫を携へて、難をエルフルトに避けんとし、行く〳〵其の止るべからざるを聞いて、遂に遠くカッセルに逃れぬ、特にフリードリッヒ大王の功業は佛帝ナポレオン一世に奪はれ、實弟ブラウンシユヴイク侯等が一敗地に塗れて、昔日の勇名ぬす所なく、瘡傷の爲めに薨去するに至りては、侯妃亦長く此の悲痛を抱くこと能はず、一千八百〇七年四月十日、カールの來るに會はずして逝けり、即ち逝くと云ふと雖ども、獨逸文藝の黃金時代と共に、令名永く汗靑に垂れて、侯妃の偉績を仰がざる者なからん。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

家政

金錢の使用法

コーツ夫人

日本の御婦人方は、餘り金錢のことなどを申しますと、或は下品だと仰やるか知れませんが、一家を經營する上に最も大切なことは經濟の觀念と共に、金錢の配當法であります、各々家庭の異なると共に金錢の配當法にも種々ありませうが、先づ私共では夫と相談の上、收入の全額を左の如く配分致します。

第一には所得の全額を、假に百十弗と定め、此内十弗は金子を得るために要する費用として第一に除きます、即ち大工なら大工道具の修繕やら新調やらて月々多少の金子が必要であると同じく、牧師とか教師になりますと、書籍代の如きは最も必要な部て御座いますから、本代として十弗を取るのであります。

第二には殘額の十分一即ち十弗を以て神の爲めに使用するものと定めます、これは傳道とか慈善事業等凡て人の爲め、世の爲めに有益なることに投ずるのであります。

第三には生活費、即ち家事一切の費用として六十弗を私が受取つて、食料は勿論勝手道具や普通の家具、婢僕の手當まで凡てこれを以て負擔するのでありますから、これが最も私の手腕を要する點てあります。

第四には殘額三十弗の内より十弗を兩人の小遣と致します、其割合は夫が六で私は四てありますが、私は此内て普通自分の衣服料も出さねばなりません、併し自分の小遣と定まつた金子を持ちますと、自分一個人の交際費ともなり、凡て心の儘に使用することが出來て、誠に氣樂て御座います。

第五には殘金の二十弗、これは病氣の際とか、或は臨時費として貯金して置きます、是等は皆私共が結婚當時の計算割合てありますから、子供、教育費もありませんが、只今は子供も居り、亦其當時より收入も增して居ますから、多少の變化を來しては居りますが、大體に於ては左程の差てもありません。

借て金子の使用法に就ては幼少より善い習慣をつけて置かねばなりません、それ故に私は四五歲の頃より年に順じて子供に金子を與へ、使用法は子供の自由に任せます、五歲のものへは一周間に五錢、七歲のものは七錢と云ふ順序て與へます、此内一錢は教會へ慈善費として寄附させ、二錢は貯蓄させ、殘金は各々の好む處に使用さするのであります、併し學校用の費用は子供達の小遣には少しも關係がありません。

これと同時に勞動によりて得る所あるを教ふる爲めに五歲になれば何か必ず仕事をさせます、これは金子を得るには相當の勞力を要するものであると云ふことを教へ、又父母や他の家人は子供等の爲めに勞苦を取つて居ますから、子供心にも少しの用事ても出來る身になつたらば他の人々に對して報ひねばならぬと云ふ義務心を養はするのであります、斯かる習慣が同情の心となり、公共の心をも養ふのであります、尙ほ勞働によりて身體の健康を增すと共に、精神の快樂をも覺え、益々働くことの人生に必要にして、且貴重てあるとの觀念を養はしむる爲めてあります。

愚者家を作り賢者これを購ふ

評議員　某博士夫人

近頃軍人方は下賜金があつたり、勳章を貰つたりして金廻りが宜く、商賣人もまた少しく融通がついて來たと見えて、東京近傍には家を建てることが流行すると云ふやうな有樣になつて來ましたが、私共の考へでは、どうか身分不相應な華美を盡くした家を今の內に建てゝ置いて貰ひたいと思ひます、何故なれば五六年も過ぐれば、必ず是等の家が賣り物となつて出るに相違ありませんから、其時には私共が廉價で買受けやうと今から待ち受けて居る次第であります、元來家の大きくなるに從ふて家計費は膨脹して往くものでありまして、僅かな話てはありますが、雜布の數からして增さねばなりません、それに間數の多いに從ふて掃除の爲めに三人の下女は四人使はねばならず、點火料から近隣の交際、來客に對する設備に至るまで、夫れ〳〵違ふて參り、臺所の經濟に及すことが尠くないのであります、陸軍の少將位て現役の人が俸給僅かに一ヶ年三千百五十圓程て、勳章年金が五百圓づつ下がるとしたところて、一ヶ月三百圓位の割合てありますが、これては如何に敏腕なる奧さんが居られても、新たに大きな家を建てゝどうして維持して往くことが出來ませうか、私共は甚だ疑問に思ふて居る次第てあります、況んや借金までして家を建てるなぞと云ふことは愚の極であると思ひます、且つ子に對する教育も格別善い結果はありません、大將の子が必ず大將になれる譯のものではありませんて、其子の教育次第て大將の子が後にはよか〳〵飴屋となるとも限りません、否な多くは馬鹿な子が出來るものであります、是れは畢竟身分不相應な大きな家に住んで、我れこそは大將である大金持ちてあると見得を張るに過ぎず、其子は其親が死んだら家は我物となると思ふ平常の心よりして、自然奢りと怠惰の心が出來て、後には遂にかく〳〵飴屋と落ちぶれるのが出來るのてあります、殊に商人あたりが其商業上の擴張の爲めに、必要上家を建てるのは別のこととして、僅な金を儲けたと云ふので娛樂の爲めに家を建て、資本の固定するのも知らず、やれ安心と一息つくやうな少さな膽力ては、到底立派な成功を遂ることは出來ません、家は借家ても資本が出來たらば商業用に注ぎ込んで、益々商業の繁榮を計ることに全力を盡くさねば、大商人となることは六ヶ敷いと思ひます。

▲家事實驗談を募る

一　家政の實驗談なれば、文を飾るに及ばず、有の儘を記されたし

一　記事は相成るべく簡短に、文字は明瞭に認められたし

▲育兒實驗談を募る

一　坊ッちやん嬢さんをお育てになつた實驗談、有の儘を記されたし

一　記事は相成るべく簡短に、文字は明瞭に認められたし

家事實驗談

寸暇を作るな

京都支部幹事　花輪余志野

私の如き獨身者が、家政實驗談なぞと申すことを申出ますのは誠にをこがましいてすが、是は十分經驗ある母が實行致しましたことを私が受繼いて居ります故、其積りて御覽を願ひます、私の母は實に勝氣な人てありまして、仕事を後らすことを一番嫌つて居りました、てすから先づ朝飯を七時までとし、晝を十一時、晩を四時と定めまして、其刻限を少しでも後らしたことは御座いません、それて子供や下女なぞは夜は九時限り寢させ、朝は夜の明ると共に起よと申付けまして、若し寢過ぎて居ましても決して呼起すことは致しませず、先づ自身起床して用事に取かゝります、故に何程寢坊の下女ても居眠りと朝寢は致しませぬ、又私共にも下女と同じやうに家事を手傳はせまして、決して無性に人を追ひ使ふことは許しませぬ、且つ女學校には或る弊風のあるを厭ひ、私共を學校に入れず、家庭に於て嚴格なる監督の下に、一と渡りの事を師につき、或は自身て教へなぞして、友達と氣儘に遊びに外出さすと云ふことは少しも許しませんてした、父は不在勝てあります故、母は內外のことを一身に引受けて整理し、家政上父より不足を聞いたことは御座いませんてした、又た炭の買溜とか、梅干の貯藏なぞは先號の本紙に物された尾崎男爵夫人のお話しとよく符合して居ります、或人は物品を餘分に買い置くことは不經濟てあると申しますが、母の主義は反對て、大層廉價てあると見た物は反物ても切れても器具ても求めて置くのてす、これは進物用としても宜く、家庭にても何れの時か入用の品てありますから、蓄へてある方が便利て却て經濟てす、例令へば今入用だからと申て呉服屋に申付けるとか下女を走らして居ましては、思はしき物が無かつたり、案外高價てあつたり致しましても、止むを得ぬから買ふことになります、故に主婦たる者は平生此邊にも注意ありたいことゝ心得ます、又下女を餘計に置く時は主婦は樂のやうてすが、第一に不經濟なり、第二に子供が無性致します、人と道具は有れば使ふの諺の如く、出來る丈け節約して子供等には自分のことは自分て始末致させ、主婦も多忙な方が運動になつて身心活動し、知らず〳〵の間に健康を得られます、凡て婦人達に暇のあるは、家政上から申すと不經濟てあつて、自身にも不健康を害ふ損があります、小人閑居して不善を爲すと申しますが、正哉に女てすから大した惡事は致しませんても、身裝に時を費すとか、散歩に短き秋の日を空に暮すとかして、家政上に善いことは一ツもありませぬ故、私共は矢張り忙しき方が宜いことゝ思つて居ります。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人會記事

●理事會 十二月中の理事會例會日取りは左の如し

十二月十二日(第二水曜日午後一時)

●評議員會 十二月中評議員例會日取りは左の如し

十二月十二日(第二水曜日午後二時)

●會長の訓示 今般左の如き訓示を各支部に通牒したり

愛甲第八〇號

拜啓秋冷之候愈々御清健奉賀候陳者本會質實を尊ぶの精神は我國古來の美習にして亦西俗貴婦人の華美文飾を喜ぶに於ても特に慈善事業に從事せる時は一般に簡素の裝を以て周旋盡力する習はしと聞く本會員の誇るべきこの精神は偶々彼の戰時に際し本會員の弔慰又は歡送迎等の場合に於て常に其躬行實踐となりてこの質素の美風を示したるは既に世の認識する所と相成本會の之を滿足すると同時に本會員たるものゝ今後益々率先自重戰後奢侈の風潮を抑制するの責任に當らんことを希望する所に御座候此秋に際し支部又は幹事部等に於て總會を擧行せらるゝに當りては相成るべく誠意質素を旨とし多額の冗費を擧式の準備虛飾の待遇等に用ゐず特に服裝の華奢に流れざる樣深く御配意相成候て本會の今日に處する至當の措置に相成候と支部事業經營上にも必要の急務と相信じ申候本件は素と畏くも總裁殿下平素の御意旨にも有之今や本會々員大募集と相伴ひ支部又は幹事部總會等續々開催の趨勢と世の華美を尊び奢侈に赴くの風潮に感ずる所有之も計り難く旁此際貴意を得度次第に御座候右御諒察の上貴支部下御取締相成候樣致度此段特に申入候敬具

明治三十九年十一月

愛國婦人會長公爵夫人岩倉久子

●三十九年度定期救護 本會に於て北海道外四十六支部に對し三十九年度定期救護金を贈與せし人員は一萬二千七百三十六名金額四萬七千六百六十五圓なり

●總裁殿下支部總會御臺臨 豫報の如く山梨支部第一回總會に御臺臨あらせられ去る十一月廿一日東京御出發十一月廿三日支部總會に御臺臨同二十日御歸京あらせられたり

●評議員會例會 十一月中の評議員會は去月二十八日本部にて開會せり出席者は岩倉會長近衞理事始め評議員千家俊子神山まさ子槇尾作子岩佐轍子尾崎八重子關むら子仁杉猷子松浦島子小浦義子長岡芳子豐島文子山脇房子佐藤鶴子中山幸子有島幸子弘田増子山地謙子南郷柳子等の諸氏にして三十七八年戰役に對する功績者に紀念賞牌授與の決議中賞牌の寸法訂正の件(可決)韓國支部に對して會費其他の配當方案(可決)紀念賞牌を贈與す可き人々の功績調査は參事會に於いて行ふ事(可決)男子の功績者には木盃を贈與する事(可決)徽章を不可抗力に依つて失なへたる時は無代價再渡の件(可決)

●寄附金披露 其の後金拾圓以上寄附者左の如し

一金參百圓 淺草區 江崎うた子
一金百五拾圓 在東京 オスカル、ロイブ
一金百圓 麻布區 秋月左都夫
一金貳拾圓 靜岡縣 古川柳子

山梨支部第一回總會

愛國婦人會山梨支部第一回總會は去月二十三日午後一時より舞鶴城本丸に於て擧行したり豫て招待を受けたる軍人遺族並に癈兵並に會員三千餘名の人々は入口正門にて紀念品菓子券を受け式場に進み御待ち申受くる間もなく閑院宮兩殿下には御隨員一同を從へさせられ支部長武田濱子氏御先導にて臺臨あり此時一同敬禮(奏樂)總裁妃殿下には御尊顏麗はしく御席に着かせらるゝや支部長武田濱子氏開會の旨を奏し次て御前に進み職員名簿及會員表を捧呈し尚明治三十七八年の戰役に關し賜りたる御令旨を捧讀(此間一同最敬禮)す次て總裁妃殿下は御起立の上左の優渥なる御諭旨を御朗讀遊ばさる

愛國婦人會山梨支部は會運漸く振興してこゝに其第一回總會を開くに當り諸子と親しく相見るは智惠子の深く喜ふ所なり

今や戰役の後を承て本會の責任彌々重く事業の前途尚ほ遼遠なり會員諸子一層奮勵益々其志を堅ふし力を戮せ以て本會の爲め此遠大の目的を達するに努められんことを望む

右に對し武田支部長は左の如く奉答せり

愛國婦人會山梨支部は會勢漸く順境に向ひ茲に本日を以て第一回總會を開くことゝなりぬれど他地方の支會よりは役員等の參列せらるゝさへ既に望外の光榮と皆々喜び合へるに測らずも又總裁殿下の溫容を拜し奉り優渥なる御諭旨さへ拜受せるは我等の恐懼措く能はさることにこそ此の上はたゝ御さとしの程を恐れ畏みて益々微力を君國の爲に盡すべきのみ謹みて殿下の御健康を祈り本會の前途を祝し奉る

次に副長添田貞子氏事務の報告を爲し次に會長代理評議員伯爵夫人阿部篤子氏の祝辭朗讀あり

終つて會員總代として高等女學校教諭吉澤幸子の祝詞あり右了るや總裁殿下より有功章の御授與癈兵總代遺族總代に特別賜金の御授與あり支部長より終式の旨を奏したるに此の時兩殿下より癈兵及び遺族一同に對し特に難有き御言葉を賜り御退場あらせられたるは午後二時二十分頃にて式後參列會員順次退場散會したり尚ほ式後機山館に於て特別會員以上の茶話會あり兩殿下には同會に臨ませられたり當日御下賜金を拜授せし遺族數は七百九十人癈兵二百五十二人なりし

鹿兒島支部第五回總會

鹿兒島支部第五回總會は去月十一日同市鶴鳴館に於て開かれたり開會に先ちて會するもの六百名其の重なる人々は大久保中將上村市長篠崎五郎氏田宮興正寺院長花田中佐等凡そ五十餘名と數へつ開會時間前嚠喨たる樂の音絶へず起りて美妙じき響に滿堂の空氣を戰かせぬ着座の後一同の敬禮を終ふれば演壇の側に座せる島津サヱ子氏進み出て開會の辭を述べ次で澤田顧問開會時刻に付ての挨拶を爲し終れば島津サヱ子氏再び進んで總裁殿下の御眞影の開被をなしぬ御前に活けられたる大輪小輪の黄菊白菊は皇國の彌榮へに千代八千代變らじとの色を帶びる一同肅然として起立し最敬禮をなし更に「君が代」の國歌を誦し斯くて一同着座し島津サヱ子氏三度進み臨んで左の如き總裁殿下よりの御諭旨を奉讀す

愛國婦人會鹿兒島支部は茲に其の第五回總會を擧行するに及べるは智惠子の誠に喜ぶ所なり今や戰役の後を受け本會の責任殊に重く事業の前途尚ほ遼遠なり會員諸氏一層奮勵して同心協力以て本會の目的を達せられんことを望む

次て萩原英子支部長千頭德子に代りて答辭を朗讀す

本日愛國婦人會鹿兒島支部第五回總會を開くに方り總裁殿下より優渥なる御諭旨を賜ふ會員一同の感佩恐懼に堪へざるところ洵に難有ことにこそあれ今や我國戰勝の武威中外に宣揚し國運隆興と共に一面多數の遺族癈兵を出したれば其の忠烈武勇の軍人の偉勳に酬ゆるの精神を以て倍々本會の趣旨の遂行を計り愈々會員の増募に努め以て叡旨に副ひ奉らんことを期す 謹で

答詞を上る

終つて島津サヱ子氏御眞影を閉被し次て有功章の授與に移る一等三十名は上村しげ子總代として之を受け二等七十四名は和田たか子總代として領じぬ次て市來主事の諸般事務報告ありて來賓の祝詞演說に移り吉岡聯隊長夫人起ちて閉會の辭を述べ尚ほ澤田顧問は陸海軍人將校夫人會に付き會員に對ひて希望を述ぶる所あり一同着坐の儘敬禮し夫れより宴會餘興に移る宴會場は來賓は同館內會員は柳月浩然の兩茶亭にて餘興には浪花三光の軍談あり滑稽なる物語ありよく人々の頤を解きぬ斯くて日の漸く西山に傾くに隨ふて會員漸く散じ黄昏に至りて全く本會を閉ぢぬ

各地支部狀況

▲東京支部　本郷區幹事部に於て催せし慈善芝居は好成績を得收入金貳千九百參圓參拾錢支出金千參百八拾圓參拾七錢五厘純利益千五百貳拾貳圓九拾貳錢九厘を得たるにより內千圓を區內の遺族癈兵諸氏に分配し其殘金は積立て遺族の授產準備に備ふる事に定めたるよし又牛込區幹事部にては會員增募等につき會員相互の親交を圖るべく去月廿四日正午より後樂園に於て親睦會を開らきしか會するもの六百餘名落語女劍舞等の餘興もありて頗る盛會を極めたるが是等一切の費用は同區幹事諸氏幷に有志の寄附にかゝるものなりと

▲大阪支部　大阪支部は會員募集を目的として客月下旬より遊說員高橋武子女史派遣を乞ひ客月廿六日市內大阪博物場に於て第一回主旨演說會開會後引續き各市郡に於て晝夜二回開會せしことありて大に會員募集に努められたる結果即時に入會申込者約千二百餘名其後各幹事部より日々多數の申込ありて既に三千餘名に達せんとす尚此回の募集は嚮て總裁殿下臺旨に副ひ奉らん微志にて高崎支部長を始め土居顧問評議員大谷前川其他幹事一同に於ても一回の缺席なく各所演說會に出席する而已ならず其間には各所に東奔西走大に盡力せられ其結果入會者中にも實に奇特なるもの多數ありたり

▲栃木支部　目下遊說員野中彌知子氏同地方出張中なるが氏の演說を聞き入會したる篤志者の二三を揭げんに那須郡太田原町百六十四番地湯田秀雄方同居遲澤とく子(八十一歲)は我子より課話。趣旨を傳聞し感憤の餘り月額五十錢の內を割きて(本籍より送金せる金の內)不自由を忍び入會し又女按摩にして同じく講話を聞き入會し又總聞中の一行を挽きたる人力車夫にして講話に感じ其妻を入會せしめたるものありといふ

▲埼玉支部　埼玉支部に於ては本月二十三日北足立郡癈兵慰勞會擧行の戰病死者招魂祭及び凱旋祝賀會に對し支部より遺族三百廿七名に對し菓子折詰を寄贈し支部長始め評議員幹事部長幹事一同接待の勞を執られ茶を酌み菓子を與へ懇に其不幸を慰問せられたるは大に衆人の感動を起さしめ中には涙禁ずる能はざりし遺族も見受けたり又同郡癈兵八十二人に對し支部長大久保榮子氏より私費を以て綿々ひ布を寄附せられ尤亦親しく慰問厚く介抱せられたり

▲島根支部　島根支部に於ては追々會員増加し殆んと當初の豫定數(一萬人)に達せんとするの盛況に至りしにより十月廿九日初めて評議員會を開き事務の報告を爲し救護施行に着手の件徽章授與式節の件其他の諮問を爲し紀念の爲め一同撮影を爲したり當日は松永顧問も出席して一場の演說を爲し藤本、本間、柳田各書記も臨席したり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

子供クラブ

燕塚

江戸　靜川

往昔支那の襄陽と云ふ所に衞敬瑜と呼ぶ人がありました、この人の妻君は覇陵王整と云ふ人の妹で、それは〳〵氣質の優しい善い人でありましたが、不幸にして十六の歳に夫衞敬瑜に先立たれて寡婦さんになりました、十六と云へばまだ女の盛り、咲き初めたばかりの花を此儘朽さするのは惜しいことだと云つて、實の兩親は勿論のこと、舅姑までが頻りに今一度お嫁入りをするやうにと勸めましたが、貞しき婦は二人の夫に見ゆべきものでないと云つて、堅くこれを斷りました、然雖、兩親や舅姑は何うしても承知しない、矢張りお嫁に行けと云ひます、所で女は自分の耳を截つて盤の中に置き、何んと親達が仰られやうとも、私は決して二度の夫は持ちませんと云ふ誓を立てましたので、親達も其の堅き決心の動かせないのを知りまして、それからはモウ再び此事を云ひ出さぬやうになりました。

所がこの女の家の戸口に燕の巣があッて、毎年春になると夫婦の燕が來て卵を孵し、其の子を育て、秋になると歸ッて行くのが例になッて居りましたが、或年牝の燕ばかり來て淋しさうに、巣の中に一羽で棲むで居るのを見まして

「不憫さうに、この燕も夫に別れて、私と同じやうな身の上か。」

と巣の下に立ッて、思はず知ずハラ〳〵と涙を溢しますと、燕は

「難有う御座います。」

と、口へ出してこそは云はないが、嬉しさうに羽搏きをして、それからと云ふものは、この女を怖がりもせず、常に傍近くへ來て樂しさうに遊むで居りました。

兎角する内に其年も既や秋に入ッて、初雁の聲空に聞ゆる頃となり、燕の歸る時季が來ましたので、女は又來るまでの紀念にとて、紅い絲を燕の足に結び附けて遣りましたが、翌年その絲を附けたまま例の通り遣ッて來ましたので

昔年偶無くして來り
今春猶獨り歸る
故人の恩既に重し
復双飛するに忍びず

と云ふ詩を作ッて歌ふと云ふ風で、女と燕とは、言葉を交すことだけは出來ないが、同じ身の上であると云ふところから、愛し睦ぶの情が結ばれて、孤棲の女も別に淋しさを覺えず、七年ばかりは夢の間に過ぎました。

斯う云ふ操の貞しい、氣質の優しい女でも、天の與へた壽命ばかりは何うすることも出來ず、不圖した病氣が原因となッて、名高い醫者の治療も、高價い藥石の効能も顯はれず、終に歸らぬ、遠い〳〵國へと旅立ちました。

女の沒なッた翌年の春、例の燕は遣ッて來ましたが、女の姿が見へぬので、家の周圍をぐる〳〵邊ッて哀しい聲をして啼き出しました、すると家の人達が氣着いて、女のお墓のある方角を敎へてやりますと、燕は其のお墓の側へ行ッて、餌を與ッても食べず、啼いて〳〵啼き倒れて、とう〳〵死んで了ひましたので、女のお墓の側へ埋けて、燕塚と云ふのを建て、遣ッたと云ふことです。

燕のやうな小鳥にさへ、斯んな義理と情を知つたのがあるに、萬物の靈長だと云ふ人間に、往々慈悲も情もないのがあります、ナント慨かはしいことではありませんか。

（をはり）

坊のものは坊のもの

久津見蕨村

▲子供衆の内には、自分の玩具も姉さまのお人形も、幼兒ちやんの『おしやぶり』もメチヤ〳〵にして、少しも分け隔てをなさらんのがあるやうでございます。

▲これは決してそう惡いと云ふほどのことでもないやうでございます。どちらかと申せば、一々兄弟の物を分け隔てをして、之れは太郎さんの玩具だ。これは次郎さんのだとそう窮屈にするには當らんやうでございますが、亦一方から考へて見ますとそこに明に極りを付けた方が宜いと想はれます。

▲『これは坊のものですよ。坊のものは坊がどうにてもなさい。其代り坊が獨りで始末をつけるのですよ』と云つて玩具をやりまして、而して『坊のものは坊のもの』と云ふ所有の觀念を自から起させるやうにするが宜いと想はれます。

▲如何に幼年の子供でも、もう三四歳になりますと『坊のもの』と云ふ所有の觀念の極はじめの心が芽さして來てそります。此『坊のもの』と云ふ心は頓て人ものと云ふ概念の起る初めにもなります。一方に『坊のもの』があれば他方には『坊のものでない物』があります。此概念が明かになりまして、而して之が宜く導かれますと玆に亦二つの意思が起ります。

▲一つは『坊のものは坊のもの』だから坊が大事にすると云ふ意思でございまして、頓ては所有物を重じます意思ともなりますものでございます。更にそれが進みましては『坊のものは坊が大事だから大切に始末をつける』と云ふ自治獨立の觀念にもなりませう。

▲又一つは『坊のものでない物は坊のではないから、之を勝手にしては惡い。弄つたり、毀したりしてはならぬ』と云ふ他人の所有を重じます意思でございます、更に之が進みますれば自他の區別を明にしまして寸毫も他を犯さぬと云ふ正義の觀念ともなりませう。

▲『坊のものは坊のもの』と申しますことは、極簡單なことゝて、そう〳〵心に留める必要もないやうでございますが、其良い〳〵行末の結果を考へますと、中々大切なことゝでございます。それが善く導かれますと人一代の道德倫理の上にも大ひなる光明を放つものとなります。

▲『坊は坊のものを大事にして始末をお付けなさいよ。坊は坊のものが大事なら、人も同じことですよ』と自他所有の區別を明にしますことは、日常子供を育てます間に頗ぶる大切ではありません乎。

蝶の辭世

森田竹子

朝花野の香に迷ひ
夕草野の露に醉ふ
花に眠りて花に醒め
美しき羽袖を持つ故に
多くの人に愛られつ
世のうき事は白浪の
絶えて久しき此日頃
心のまゝに遊びしが
花の姿もいつか消え
香さへ止めず成果て
露は霜とぞ置きまさる
けふこの頃の寒空に
我身も今や逝かんとす
思へば怪し蝶の身や
夢に生れて夢に死す
我身に何か望むべき
富も譽もいさをしも
人に殘していざゆかん

子守唄

長野　隠岐ぎん子

ねんねんよー、ねんねんよー、始めて都へ上るとて、碓氷峠で日が暮れて、お寺に泊まるは氣支いて、酒屋に泊まつて夜が明けて、朝早よ起きて、お女郎衆、黄金の盃持ち出して、一杯あがれよお客さん、二杯あがれよお客さん、肴がないのであがらぬか、おーらの方のさーかなは、たーかい山の、たーけの子、ひーくい山のひーきの子、小池のなーかの米櫻、そーれを肴にしてあがれ。

ねんねんよー、ねんねんよー、ねんねのお守はどーこ行た、あの山こーえて、さーと行た、さーとの土產に、何に貰ろた、デン〳〵太鼓に笙の笛、敲いて聞かしよに吹いて聞かしよにお目覺めなー。

▲子守歌を募集す

長短を問はず各地の子守唄御投稿被下度候

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

歌合せ

松原至文

○

風になびく富士のけふりの空に消えゆくへも知らぬ我おもひかな　（西行）

水の如く無邊にゆき、煙の如く無際にゆくものは、わが法界の人の心にあらずや。谷に漱ぐ朝ぼらけ、草に枕の夕まぐれ、幾夜の夢を重ね來て、花橘も茶に匂ふ、大駿河のくにに入れば、振りあほぐ廓大空侗の天に、あまそゝりたつ八朶の白玉殿、その一角に立ちのぼる、我思の如き香煙の行末よ。

莊司福子

○

さ夜ふかく旅の空にて鳴く雁は己が羽風や夜さむなるらむ　（伊勢大輔）

夜や闌けぬらし、廂にあたる嵐の落ち葉、さゝ鳴りのひゞきも冴えゆきて、ふと聞く雁の聲に、とぼそを繰れば、秋老いたる哉、霜の氣ふかき滿天の星のまたゝき、節くれだてる木の枝をすかせば、一行の雁影、天の川をかすめてわたる。おのが羽風の夜を寒く、南の空に溫かき塒もとめて、かへり行くらむ。

○

心ある人にひと夜の宿かりてなるゝもつらし明日の故郷　（契沖）

人の心の溫かさは、旅路の夢にこそ知られつれ。一河のながれ一樹の陰は言はずもあれ、同じ廂の下に寐し、夢こそちがへ、明日はわが行く旅の袖をとらへて、あれあの山に雲の立つ、行く手の里は雨なるべしと、とゞむる人の情の厚さよ、明日の故里、よべの宿、つらしとかこつ、旅人もまた情の人にもあるかな。

○

あびきする船の寒さを身にしめてねられぬ妻や衣うつらむ　（八田知紀）

あびきは網引なり。潮路の風に袖ぬれて、かへる苫屋に、わが妻ならし、紙障子窓の燈の影よ、夜寒の空に冴えて聞ゆる砧のひゞきよ。夫の居ぬ間をかくて夜な夜な、夫が船路の潮風を、わが身の肌にしめつゝ、いをねぬつれ〴〵に、衣うちうちまた、衣うつらむ。たちかへる船がしらに立ちし舟夫が思のいかゞありけむ。

○

いつも聞くものとや人の思ふらむ來ぬ夕ぐれの松風のこゑ　（藤原良經）

蕭條として行く秋の暮や、聞くものは松風の聲、いかにさびしきはみならずや。まして人の胸に思ひのあるこの夕べをや。人はいつも聞くものとや思はん。常に聞くとも、さびしこの松風、待ち〳〵て人の來ぬこの、わびし庵のわびしのさまや、思ひや。など吹くや松の風、松の聲、わが夫はかくてもなほ、來べき今宵を來ぬにあらずや。

短文

▲八雲琴（一等）　大阪　富永才子

山茶花の窓淋しう暮れて、落葉に渡る風寒き夕、久しううつろ家なりしとなりの宿より、うたふ聲もほがらかに、八雲琴の音もれそめぬ、「天てらす日の大神の宮柱太しくたてゝ天地の、其始より皇の、御代を守りの神路山」うつりこしたるは、いかなる人ぞ、さても床しのしらべかな。

▲選者曰　床しき琴の選びかな

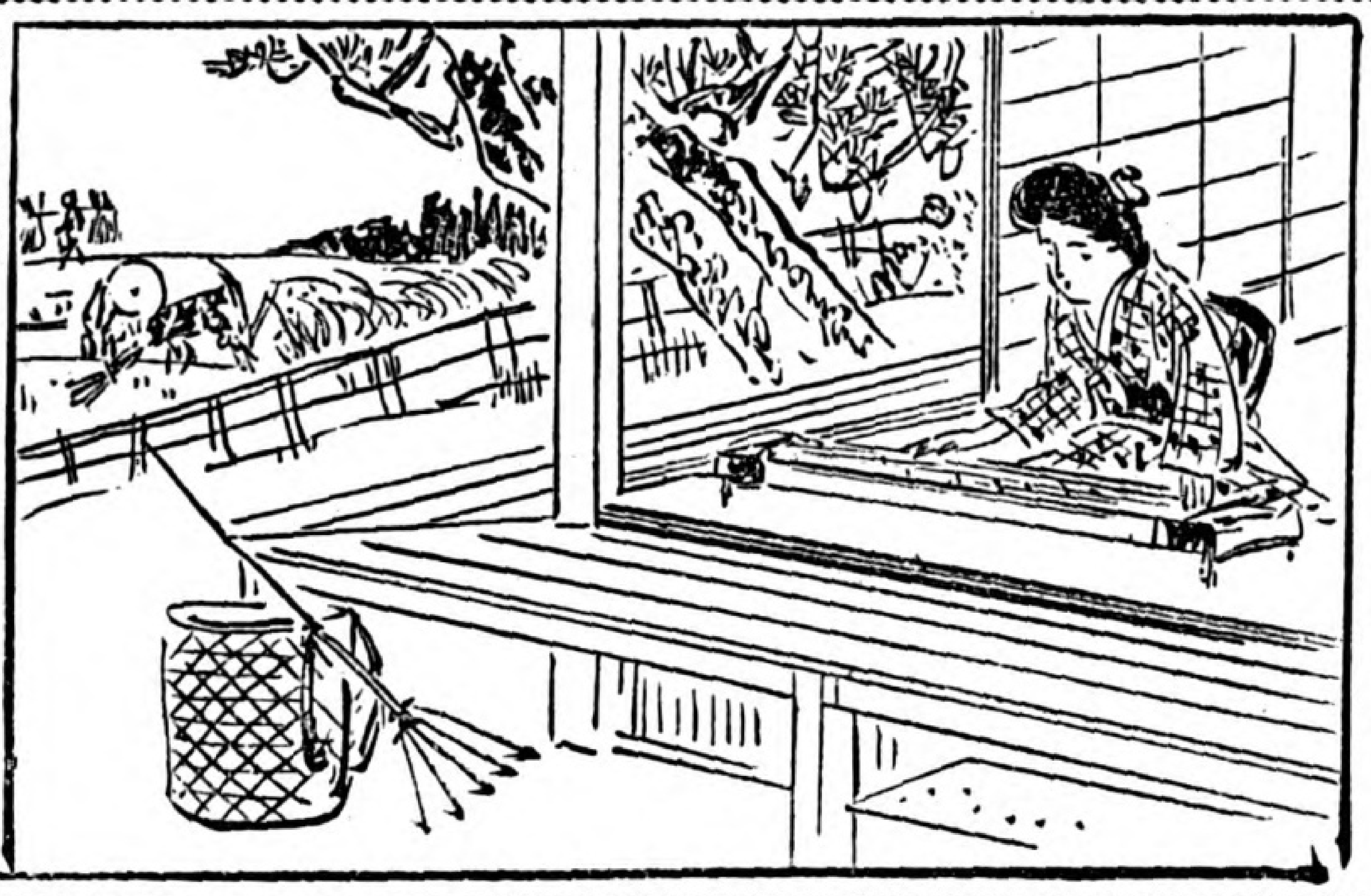
▲島田髷（二等）　埼玉　森田竹子

右手に花鋏を左手に紅實累々たる梅擬の枝を持ちて、八千草枯れ伏す野に立つて一眸千里、穗浪豐に點々刈り取られたる田の面に、低く高く舞ふ鷹を眺めてゐたが、ガサと落葉を踏む音がしたので其方に眼をやると、熊手を挿した空籠を背負ひて來かゝる少女の、被れる手拭除つて見る人ありとも知らでか、昨日あたり結ひしと覺ゆる島田の髷を撫て微笑む態の嬉しさう。

▲選者曰　餘りに道具立が多過ぎる

▲小作帳（三等）　青森　留目文子

見渡せば限りもなく打つゞける村の農場今は一面の錦となりぬ、彼處此處にはや若き男女の打交りて、節面白う歌ひつれて稻を苅るあり、馬に荷乘せて行く童もあり、或は田の中に積む人あり、ならべつゝ數へる人もあり、何れ喜びの色面に表はれぬはなし、我は小作帳を手にして毎日此所にこの氣色を眺む、樂きは秋の農家ぞかし。



▲選者曰　面白く拜見したり

▲うつし繪　東京　中限富士子

懷しき亡き友がうつしゑ、鬢面ふくよかに髻の品高く、花も恥らふ御顏面、一きわ美しう見えさせ給ふ、いつ取り上げ給ひし、君よなぜに語らせ給はぬ、いらへはせさせ給はぬ、五とせの昔、共に母校をはなるゝ時、かたく契りし彼の事よもや忘れ給はじものを、ヲヽ何を笑ませ給ふぞ、我が悲しみをよそに見給ふや、優しく嬉しかりし其御笑みも、今は涙の種なるを。

▲秋の夕暮　岡山　西村てふ子

物哀れなる暮秋の空、亡き兄上とともに眺めせし折こそ霜枯の野邊にも興を添へたれ、一人のこされし身の見きくもの皆面白きはなし、まして此の夕暮、山寺の鐘かち〳〵と紅葉の底より響きては、目のあたり見ゆる山姫の手染の錦も、さびしき風情を添へたらん心地ぞする。

▲山家の秋　長崎　葛原玉園

そことも知らぬ鹿の鳴く音に、曉の夢破られて起出れば、木枯いとふ吹き荒み、つい昨日迄は千草の色のとり〳〵に、見る目もあやに美はしかりし野邊の景色も、いつしか消へ失せて哀れにさびしき枯野の樣となりぬ、實にさびしきは山家の秋なるかな。

▲獲鮭を見る　山形　阿部さゐ子

此程姉上に伴はれ、最上川下流の中洲にて鮭とる樣を見に行きぬ、昔の渡場を舟にて漁場に至れば、折しも網は上手よりおろされ、下に至りて網のつきぬれば、人々は舟より下り、一方の網を轆轤にてまく、やがて網は二十五六の人して曳かれ、鮭は網の中より陸に投げ上げられ、鬨の聲勇ましく中洲に響く、目覺しきものなりしか。

▲回顧錄　京都　花輪よしの

ひねもすの雨尚止ず、窓外に蕭々として、まだ宵ながら寂寞たる孤燈の下、ひとりひもどく書は亡き父君の、ものし給ひしみ筆の跡、見るさへいとゞなつかしくも又悲しく、世を去り給ひてより早十とせ餘りの今日迄、荒き浮世の波風にもふれぬ此身の幸こそ實に父君の賜ものなれ、それを思へば只ならぬ御苦勞を重ね給ひし此回顧錄、幾十度くりかへしては、返らぬ昔を忍びねになく松蟲の聲、汝も我が折にふれての憶出をあはれとてか。

▲馬上の人　群馬　伏島たき子

藪かげの鄰家の門邊に、送入營何々君と記せる旗幟、身を切らるゝやうな朝風に靡きつゝ立てられたるは、今日そこなる一人子の某師團へ入營するを祝ふ門出やがて聞ゆる萬歳の三唱と共に、靜に旗は此方へ動ぎ出て、馬上勇ましき人の姿も見えそめた、あゝ送る人送らるゝ人、どんな思ひがするであらう、から思ふと共に何ともいはれぬ涙がわき出てた。

▲淋しき夕　京都　淸水今子

秋やう〳〵老いて、落葉さら〳〵と蟋蟀の聲も次第におとろへぬ、あゝ淋しき哉この夕べ。

▲雨もり　愛知　石川類子

父君世に在しける頃より、家の瓦葺替へばやと常々の給ひしも、病の爲め御心すまさりけむ其まゝ打捨てありしに、父君世を去り給ひしよりはや十年餘りになりぬれば、こたびいかにしても葺替へさせばやと、過つる日より人多く雇ひて取かゝりけり、半終る頃より雨降り出し風さへあら〳〵しければ、家の內笠なくては杯思ふばかり、昔し翁の物語、屋根よりもるが恐しとかや、實に思ひあたりぬ。

一、和歌、俳句、短文、新體詩投稿の諸姉は必ず其の投稿葉書に御住所を明記せられたし

一、投稿諸姉の小照を掲げたく候へば、何卒最近の御撮影御送附を乞ふ

一、毎度申すことながら締切期日以後に投稿さるゝ方あるは殘念なり、何卒期日を堅く御守り下されたし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新刊批評

▲日本家庭百科事彙　芳賀矢一 下田次郎 編纂

本年十一月　神田冨山房　定價十圓

本書は英米獨佛の字典に本邦古來の重寶記類を加味して作りたるものにて家政の事柄は勿論政事法律經濟歴史社會百般の事實に亘りて其要を盡せり總卷一千九百頁悉く六號活字振假名附にて印刷も極めて精巧なり家庭には勿論交際上にも必要品と認む

▲新女訓　下田次郎著

本年十月　神田明治書院　定價八十錢

本書は日露戰爭以來著者が婦女の爲め執筆して本會雜誌「愛國婦人」及び「女子教育」に掲載したる論文を纏めて冊子としたるものにて要は國家の發展と共に婦人の本領を發揮せしめん爲に刊行せられたるものなり

▲手輕い菓子製法百種　齋藤鹿山編

本年十月　麹町有樂社　定價二十錢

本書は雜誌「食道樂」の臨時增刊にして冊子としたるもの、甘露菓子の製法九十有入を集録して刊行したるものなれば之に依て家庭に於て簡易の茶菓子を御手づから製られなば自然家庭和樂の一端ともなるべし

▲新婦人　界恐七著

本年十月　神田昌平堂　定價二十錢

本書は戰後の日本の新社會に於ける婦人の本務を提示して著者の意見を叙述し以て新日本に相當の新婦人を養成せんとするにあり

▲菊花培養秘訣　万代虎藏著

本年十月　神田培養園　定價二十錢

現時城北團子坂の菊を觀覽せられたる人々は如何の感をもたれたるか「今日になり菊作ふと思ひけり」の感ありしならん本書は菊の種類より說き初め植土調製法、植付法、繁植法及び其歴史等詳細叙述しあれば明年のお樂しみには必要なる參考書なり

▲二十世紀は兒童の世界　大村仁太郎著

本年十月　牛込[illegible]書院　定價七十錢

本書はスヱーデンのエレン、ケーノー女史の原著より新日本の教育に益すべき部分を抜萃譯せしものにて加味し之に多年兒童教育に趣味をもたれたる氏の意見を加へて親切に記述しあれば世の出たるものは必ずや一讀の價値あり併し全編を六章に分ち頗る奇抜なる題目を掲ぐ例令「子の親を選ぶ權利」或は「學校の精神的殺人罪」等の如し

▲實驗上の育兒　上下二卷　瀨川昌耆講

本年十一月　銀座新橋堂　定價上卷六十錢 下卷七十五錢

本書は小兒專門の醫博士瀨川氏の講話にして曾て「報知新聞」に揭げたるを增訂して冊子としたるもの上卷には育兒上の覺悟、舊來の弊風、事項等を細論し初生時代より哺乳時代に於ける一切の事項を細大となく懇切に説明し、下卷には家庭及び學校衞生等に就て育兒法に説き及ぼし父母教師の心得べき事項を叮嚀に叙述したり

▲家庭趣味　天野誠齋著

本年十一月　日本橋求古閣　定價三十五錢

厚き同情と樂しき和親とは人生の樂園にして怨恨苦痛あるを慰安し興ふるものは家庭の滿春の如き家庭に於てあるを見る本書は名家の家庭談及び專門の家衞生談を集めたるものにて東鄉大將、丸尾御養育の主任の家庭を始めとし歐米各國家庭の模範、玩具と家庭の關係、家庭と衞生等要君の好侶伴なり

▲素人診斷學　糸左近著

本年十一月　神田金刺芳流堂　定價六拾錢

本書は愛國婦人の讀者にはおなじみの糸左近氏の著述にして素人にも診斷さるゝ方法を授け此書に依て素人は應急の手當を施す事を得るの便ある可し

▲人生の實務　古川潤二郎譯

本年十一月　内外出版協會　貳拾五錢

人生の問題處生の要訣を輕妙の筆を以て纏述したるものなれば何人も熟讀して益する處少なからざる可し家庭に於ても一本を供へて訓讀の資として讀ましむるに好個の書なり現時一般の出版物が男女の嗜好に投ぜんとする傾向あるに際し本書の如き眞面目の書は實に得がたき處なり

▲新樣女子書簡文　服部躬治著

本年十一月　寳文館　四十五錢

日常の手紙を認める爲には最良の指南車なり

徳用　大俵炭　堅炭 土釜

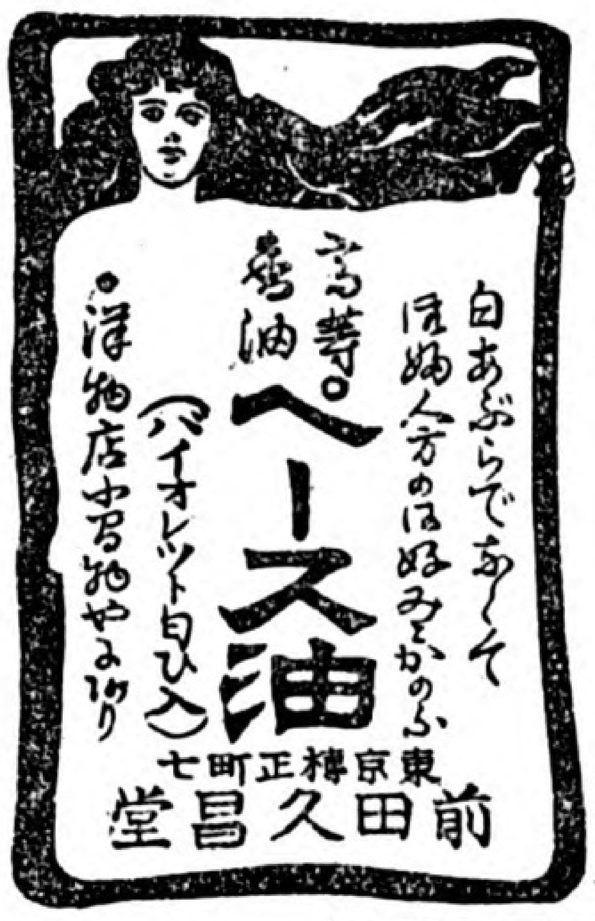
右大俵炭は山出しのまゝにて壹俵の目方は拾貫目内外皆かます入に候實買の目方に掛け候故至極御濟の燃料に候間是非一度御ためし願度御用の節は電話又は端書にて被仰附候へば遠近多少を問はず無賃配達仕候

東京市神田區三崎川岸　戸塚商店　電話本局三千貳百八番

玉川集　佐々木信綱選　定價三十五錢 郵税四錢

心の花、讀賣歌壇の歌とこたび新たに募れる歌との中より選びて、この一卷をなしつ、されば石のかずかず、玉としづける、玉川の、清き流れに、たとへて、その名負せつるも、かつは人の心の眞玉なればなり

東京神田區錦町一丁目　修文館



此の洗粉は米國最新最良特選原料を以て精製したるものなれば自ら皮膚を滑らかにし其色を白くす

東京牛込　山本玉川堂

無鉛高等化粧料　ピンク白粉

芳香は世界無類一度御試用あれ販賣は全國到る處に有

佛國パリー直輸入　倉田商店

HAIR—ROLLS U. S. Ptaent.

貴婦人間歳末年始の好適品

米國最新 束髮前髮じん　ヘヤロール

▲流行の「エス卷」結に最も好對▲輕き事「ヘネ」の如く伸縮自在▲髷を出すにはなか程を糸にてくくり長くせは格好宜し

貴婦人用の束髮元結にして切る事又は結ふ手數を省き一本あれば半とし の壽命を保つ徳用便利の品

賣捌所　ヘヤタイは各地和洋小間物店

日本一手販賣元　東京市京橋區銀屋町一番地　日加商店

十二月一日ヨリ卅一日マデ　歳暮大賣出し

電話本局 六〇八 七一六

日本橋通四丁目　松屋呉服店

畏くも東宮殿下御買上の光榮を賜ふ

美術織染物類販賣

弊店製作五二會甲種綸薬應用紀念帛紗

電話浪花六百十番　東京日本橋區人形町通り　上總屋呉服店

最新柄　京染御半ゑり 並に御勅題模樣出來

其外大見切半ゑり種々有之候

東京日本橋通り三丁目六番地　電話本局二千九百四十七番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

天
京都　花輪余志野
まつし子か辻占めせと呼ふの聲身にしみとほる冬の夜寒や
▲選者曰　同情に富める作、類想はあれといひさまよろしくあはれなる響きくらむやうなり貧し子を省きて貧し子といふ事さしつかへなし

地
北海道　足利つゆ子
さしかへし油こほりて北の海のよはの寒さを火かけにそ知る
▲選者曰　いまだしきふしはあれと着想の新らしければ

人
福岡　松村壽賀子
風すさふ夜半の燈火かきたてゝ文よむ窓に霰ふりきぬ
▲選者曰　霰の方おもくなりて傍題の難なきにしもあらねど寒夜の景よく寫し出られたるをもて採る

佳調

このみまでこほりやすらん木枯の音すさまじき冬の夜半かな　長崎　葛原梅香
筆をおきていれんとすれは寄宿舎のふすまつめたき冬の夜半哉　岡山　谷とめ子
夜嵐の身にしむ冬の旅やとりかとにめしひの笛の音かなし　山口　末田貞節子

みそれふる夜半の寒さに思ふかな遠くはなれし父はいかにと　靜岡　彦坂清子
風さむみとふ人もなき冬の夜をこよひもふけぬ昔かたりに　京都　今井紀子
やみゐます姉かみとりに夜はふけて霜おく尾根に五位鷺のなく　埼玉　小宮とめ子

甲

別荘に養ひたまふ母君の御身さきくあれ〜祈る夜寒や　東京　小島幹子
▲選者曰　二句猶あるべし
小車の音もとたえし冬の夜の大路に寒き辻占の聲遠さかる　大阪　富永オ子
[illegible]誰か子なる　岩手　佐藤よれ子
[illegible]家の門を叩　函館　阪田國子
[illegible]冬籠りゐる　東京　山口理勢子
[illegible]てらの實る　三重　小島駒子
山里の冬の夜半こそさひしけれ落葉はれやの戸をたゝきつゝ　埼玉　森田竹子

埋火のあたりにをれときえ〜ておくらん霜のしろき夜半かな　愛知　木原貞子
夜をさむみさむる枕の山かせに思ひやらるゝ故郷の母　仙臺　渡邊作子
燈火をまろく圍みて兄弟と昔かたる冬の夜半かな　青森　置目る文子
[illegible]

乙

埋火をかきおこしつゝみとりする冬の夜さむみ千鳥鳴くなり　長野　金野やほゑ
▲選者曰　下句猶あらはや
さすらひの兄しのはれてつらき夜やさなから氷る片破の月　大阪　江川かめを
▲選者曰　四句いまだし
渡し舟待間ものうき冬の夜はみねの松風身にそしみける　三重　莊司種子

木枯にちれる言の葉かきあつめ長き夜寒のしらへにやせん　東京　三宅ひさ子
老の身は冬の夜寒に堪へかねて待間もなかき明の鐘かな　三重　南部操子
虫の音もきこえすなりていとゝなほ寒き身にしむ冬の夜半哉　埼玉　加藤美代子
冬の夜や霜よりもけに古郷の母に思ひの積りけるかな　秋田　細矢はる子
埋火に老も若きもうちむれて寒さをよそにかたる冬の夜　三重　大藏よし子
ふすまもる風いもさむし冬の夜は空行く月の影まこほれる　仙臺　渡邊道子
[illegible]

吹く風もこほるはかりの冬の夜は唯火桶こそ戀しかりけれ　京都　難波長久子
學ふ身の冬の夜寒のわかてなく老の親をは思ひなりけり　三重　南部種子
露か霜か水か氷となりぬるはいとしみ渡る音の夜半かな　岡山　藤波音子
木枯の音たにさむき冬の夜をひとり文よむ燈火の下　東京　土師利根子
歸省せし子とその親はなかき夜をむつみかたらふ埋火の下　函館　尾崎よし子
國の外の寒さおもほゆる冬の夜に身にしみ渡る辻占の聲　新潟　阿部ひて子
笛の音も凍りやしけむたえ〜の盲か笛のてかを照らせ月影　函館　片岡初榮子
冬かれの夜風身にしむ村里に糸くる音は聞えつゝ　京都　岩室駒子

繪葉書贈呈

本誌が毎號募集せる和歌、俳句の投稿者日に増加して、繪葉書箱は今や溢るゝばかりの繪葉書を藏するに至り、金色、銀色、紅、紫、青、緑、燦然として眼を眩せんとす、而もこのうちに高懷の諸姉が吟詠、美はしき水莖の跡の句ふあり、吾等はこれを吾等のみにて賞玩することの、餘りに幸多きに過ぐるを思ひ、こゝに案を立て、左の方法の下に是れを諸姉に贈呈することゝなせり。

和歌
天位當選者に　二拾枚
地位當選者に　拾五枚
人位當選者に　拾枚

俳句
天位當選者に　拾五枚
地位當選者に　拾枚
人位當選者に　五枚

短文
一等當選者に　拾五枚
二等當選者に　拾枚
三等當選者に　五枚

新體詩
一等當選者に　拾五枚
二等當選者に　拾枚
三等當選者に　五枚

母こふる妹は今年旅に居てわひあかすらん冬の長夜を　長野　植原千代子
思ふどち火桶かこみてかたらへは冬の夜も短かりけり
[illegible]

新體詩

▲天律（一等）
青森　勝山千代子

昔はてなき大空に
三人の神ぞおはしける
御名はかしこき朝の君
日の君夜の女神とや
朝ははしなく夜を戀て
西へよるをば追ひけるが
ねたしと燃ゆる日の君は
朝と夜とを隔てむと
ふたりが中に立にけり
夫より絶えぬ定めにて
朝と日と夜と天の環を
めぐり〜ぬとこしへに

▲漂泊（二等）
青森　茂呂その子

夕暮れ寒むき外がはま
蜑の苦家にやどりして
寐覺て聞けばもの凄く
寄せては返へす浪の音
思ひみだるゝ小夜千鳥
明日の船路や如何ならん
十年このかた旅ころも
尋ぬる人に逢ひもせず
西にひがしに漂ひつ
世の潮風に洗らはれて
袂は遂ひに朽ちけりな
ア、蝦夷島に骨を埋めん

▲押花
長崎　平川水子

てる子の君のめでられし花
色香もあせずいだかれし花
いとしみませと送られし花
いとしとすれどかなし吾胸
さてもいとしのちさき草花
むごき冷たき胸を恐れて
そのまゝの色香あせたらん時
てる子の君になどいはんうれい

俳句　初雪

天
初雪を乘せて來にけり汽車の屋根　群馬　木暮千代子

地
初雪や湯とはおごりの朝手水　東京　龜井純子

人
前垂に初雪つゝむうなゐかな　三重　西山ひさゑ

十客

初雪や薄着の客は京言葉　青森　茂呂その子
初雪や今更ほしき歌こゝろ　東京　中山正子
初雪や主人いそかし茶の團欒　大阪　十合きみ子
初雪や檜笠着て庭づたひ　東京　赤澤英子
初雪や欄干による京女郎　京都　古川よね子
初雪や降るや頭布の冠り初め　京都　渡邊米子
初雪や雀二三羽條のさき　愛知　市橋幾子
初雪や宵にちらりとつみた斗り　東京　三宅久子
初雪や化粧鏡にうつし見り　京都　渡邊豐子
初雪やまた庭好の思案かほ　東京　秋元小菊

○

初雪や足袋はかぬ子の足の色　北海道　足利つゆ子
初雪や薄つすり山の尾上たけ　長野　金野やほゑ
初雪や笹の葉舐せる子供たち　埼玉　森田竹子
初雪や薄化粧せし庭の面　東京　西川種子
初雪や茶巾持つ手に明る窓　三重　西司い子
初雪や拾ふ思案や化粧みづ　三重　荘内せ子
初雪やしばしは木々に花こゝろ　青森　山島ゆう子
初雪や銀杏の葉丈け積して居る　靜岡　田見正子
初雪や何を雀のさゝめごと　静岡　江原た子
初雪や簾下より消へにけり　岡山　萩田さ子
初雪や冬ぞ〜と云ひふらす　京都　今井紀子
初雪やそのかみ北魁の聲　東京　藤田繁子
豐年の東の朝疾く起きし亭主かな　青森　吉田賀子
初雪や今朝の友のうちまた一句　秋田　西村き子
初雪やむかしの友の今朝とひて　群馬　伏島照子
初雪や茶の間にうらかさはくもまた　名古屋　名取種子
初雪や参らす切るほとの月夜　熊本　鶯藤み子
初雪や今朝のはたら晴れて庭の面　三重　南部さ子
初雪やこうへ茶席の自慢　山形　阿部さ子
初雪や子供の座頭も強めし　栃木　荒川信子
初雪や庭へわ香にはそらなが手口　京都　礒谷子
初雪や見きの開かる茶席設　廣島　小田め子
初雪にれも　大阪　江川か子
初雪に爐開かる茶席設　京都　八田な子

第十四回 和歌募集
題　新年
選者　佐々木信綱氏
規定　一人一首
優等作歌は繪葉書に認め本紙上に披露すべし
一月一日發行の本紙上

第二十回 作文募集
題　隨意
選者　編輯局同人
規定　百八十字以下
優等作は用紙に認め本紙上に披露すべし
一月一日發行の本紙上

第五十回 短文募集
題　初日出
選者　編輯局同人
規定　一人一句
優等句は繪葉書に認め本紙上に披露すべし
一月一日發行の本紙上

第五回 新體詩募集
題　隨意
選者　編輯局同人
規定　成るべく短きもの
優等作は用紙に認め本紙上に披露すべし
一月一日發行の本紙上

締切十二月十五日限り

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

名所店内ニ陳列致置候間御一覽下度奉希候
尚御用ノ節ハ電話又ハ(はがき)ニテ御申聞被下候ハヾ直チニ店員相伺ハセ可申候

ダイヤモンド並ニ貴金屬美術品金銀懷中時計

中村時計店

東京神田區須田町六番地
電話本局一〇九〇番

▲正定價引なし

◉第五回博覽會賜銀賞

營業品目〰特許竈各種◉特許据風呂◉特許テンピ◉特許水焜呂◉實用暖爐◉鍋釜品々

日本橋區蠣殼町二丁目十五番地
神田泉町通松永町十八(電浪一一七七番)

名和本支店

(鍍金側兩蓋之部　流行婦手形)
價八圓半　瑞西石入向爪アンクル
價十圓半　同燃石巻上向アンクル
價十三圓半　同裏三枚燃石卷上向爪
價十四圓　米國中蓋付切天賦向爪
價十七圓半　米國中蓋付上等品

○金側兩蓋之部　流行紳手形
價三十三圓　瑞西國十八金側御婦人持
價六十九圓　瑞西十八金側中形紳士持
價七十九圓　米國製十八金側中形紳士持
價九十五圓　瑞西18金側形18紳士持
價百十五圓　米國製18金形18紳士持

商品案内無代進呈

東京市京橋區銀座一丁目
電話新橋(二三三一)

伊勢伊時計店

西洋薄化粧料

女優マダム川上貞奴
俳優佛國みやげ

此ヤツコで顔を洗ひますと色を白く艶を出し顔の小皺をのばす西洋薄化粧料ゆへ日本流の薄化粧や白粉下などを用ひるに及びません

ヤツコ

●定價一鑵廿錢全國送賃四錢三鑵美麗函入五十五錢同送賃十錢(此箱入には西洋男女化粧法の秘傳をくわしく書たる美本を添ゆ)

東京神田區鍛冶町九番地　ヤツコ日本一手發賣元
原発賣元　地球堂　田中丹治

東京神田小川町壹番地

金銀寶石細工
西洋小間物化粧品

啓石舍美術店

電話本局六八一番

御勅題模様新年の松　發賣

やまとりや　神田のまん限

本店　神田小川町通り(電話本一八五三)
出店　新橋博品館階上　横濱出張店横濱箱　赤坂田町五丁目支店

東京馬喰町
長瀬富郎製造

無師獨奏　紙腔琴
舶來手風琴

◎配用曲目二百五十餘種出來
●定價金十五圓
●大形上製金十九圓
●同中製金小
●圓七十五圓
●圓五
形金
定價三圓三十圓
錢三圓五圓
錢四圓五圓
六圓七圓
錢八圓十圓

西洋(ハーモニカ)橫笛

●定價金卅五錢四十錢五十錢六十錢七十錢一圓十五錢一圓廿五錢以上

◎大聲蓄音器定價卅三圓五十五圓六十五圓
◎平圓盤發音器定價金廿五圓卅七圓金五十三圓金六十圓

高等玩具
新荷着
教育的

◎舶來バイオリン新着◎西川製風琴

東京銀座三丁目二番地
十字屋樂器店

貴婦人用最新形
肩掛、ボアー、マフ、各種
新着ヒザ掛、羽根ぶとん
佛國製リボン、造花、化粧品
特に内外流行界の精粹を集め其良品は最も廉價に販賣仕候

(ラクダ印)

ラクダ印麝香石鹸は高貴なる麝香に愛すべきミレの香料を多量に含むが故に壹度使用せば其香氣身体は元より手拭、タオル、ハンカチーフ及び浴後のゆかたに至る迄うつり香いたし五日間は殺部としてかほりを失なはざる効力は舶來品にも未だ見ざる一大特點を有す

(麝香石鹸)

○(定價大形廿錢小形拾錢)(熱心勉強なる和洋小間物賣藥化粧品店にて必ず販賣せり)

近來類似品有「ラクダ印」と井上に御注意

東京本石町三丁目十八番地芳香齋稱問屋
井上太兵衛

補血良剤

スポール無臭肝油

補血劑として稀世の卓効を有する新藥にして僅かも惡臭を存せざるのみならず飲用に適すに香氣を有するを以て婦女子も尚喜びて服する事を得べし

東京日本橋區本町四丁目
合名會社島久商店
電話本局特四九一一
電話本局三〇一八

一圓五十錢以上
衛生便器

改良樋箱

便器水盤腰掛類敷瓦水瀧類陳列專賣店

尚⊕京橋銀座壹丁目西裏通り⊕小柳陶器裏店
諸國陶器廉價販賣京橋勸業場内より路通あり縱覽御隨意
衛生便器改良樋箱發賣元⊕小柳商店
京橋銀座一電新千七十二
●市内は何方にても物品御屆申上べく候也●

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

最上醤油元祖

上十

○宮內省御用達也
○開業二百六十二年
○品質の吟味嚴重也
○風味他品に超絶す
○日本一の釀造高也

下總銚子港
釀造元　濱口合名會社

煉香油
パール
貴婦人用
紳士用
パールハ學術的最良ノ煉香油ニシテ四季ニ適シ毛髮ヒゲヲ保護養生シ凡テノ悪臭ヲ去リ愛スベキ香氣ヲ有スル世界有數ノ逸品ナリ
發賣元　東京八丁堀　平尾分店

婦人ブ
中将湯
藥王

子宮病　血の道
さん前　産後
のぼせ　頭痛
腰足冷込
下腹痛み
月經不順
白血　赤血
其他婦人病
一切の特效藥

定價　三百分二十錢　五百分四十五錢　五百分八十五錢　百分廿五錢

東京日本橋區通四丁目
本舖　津村順天堂
支店　大阪堺筋大寶寺町南へ入

日本元祖西川風琴
高尚なる音樂の嗜好は
家庭の和樂を作る基なり
宮內省御用東京音樂學校御用
橫濱市日ノ出町二丁目（電話八四一番）
西川オルガン及ピヤノ製造所
東京販賣店　十字屋樂器店　東京市銀座三丁目
關西代理店　武內樂器店　大阪市東區順慶町四丁目
《西川風琴の聲調は舶來品に劣らずと專門家の讃詞を得たり》

ムスク香水
（大瓶壹圓●中瓶六拾五錢●小瓶二十五錢）
○本品は芳香の永く保つ點に於て頗る高評なり
東京日本橋區本石町四丁目
ホーサン石鹼本舖
本舖　松澤常吉
（電話本局自四拾五番）

東京五二共進會
進步賞金牌受領
TRADE 清 MARK
京橋區金六町角
鷲塚高等簞笥店
越中屋東京本店
本店階上ニハ陳列場ノ設置有之候

患者自宅治療
完全無缺電氣自療器械發賣

●本會發賣の電氣自療器械は四種ありて孰れも本會に於ける諸大醫理學家が多年凝議討究し幾多の經驗と最新の學理とに基きて發明せるものにして專賣特權を有す左記の特長あり
●安全輕便卓効廉價なること比類なし
●永久保存一個の器械にて平流電氣感傳電氣及び混合電氣の三種を少しも手數を要せず自由に發電せしめ得るを以て諸種の病氣に對し完全適切なる治療を施すことを得
●發電量極めて多きを以て効力著大也且病氣に由り人に由りて電流の強さを自由に加減することを得
●二ヶ月毎に藥液を取換ふれば永久幾年にても使用し得
●何人にても使用し得易く少しも面倒なることなし
●書類無料送呈

腦病
脊髓病
神經衰弱
生殖器衰弱
（陰萎遺精發育不全）
慢性子宮病全身虛弱胃腸病神經痲痺神經痛頭痛不眠便秘リウマチス脚氣等を根治す

警告
本會製造の電氣治療器械は東京本會事務所及大阪販賣店の外には販賣する者一切無之（清國上海販賣店及米國紐育販賣店は設置中）然るに近頃各地に本會の擴張委員又は特約販賣人取次販賣人抔と稱し種々の詐僞を働く者有之趣又普通の感傳電氣の第一電流を平流電氣なりと稱し販賣する奸商あり孰も世人の注意を望む

東京神田一ッ橋通　東京電氣治療法研究會
大阪市心齊橋筋北久太郎町南へ入　大阪販賣店

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

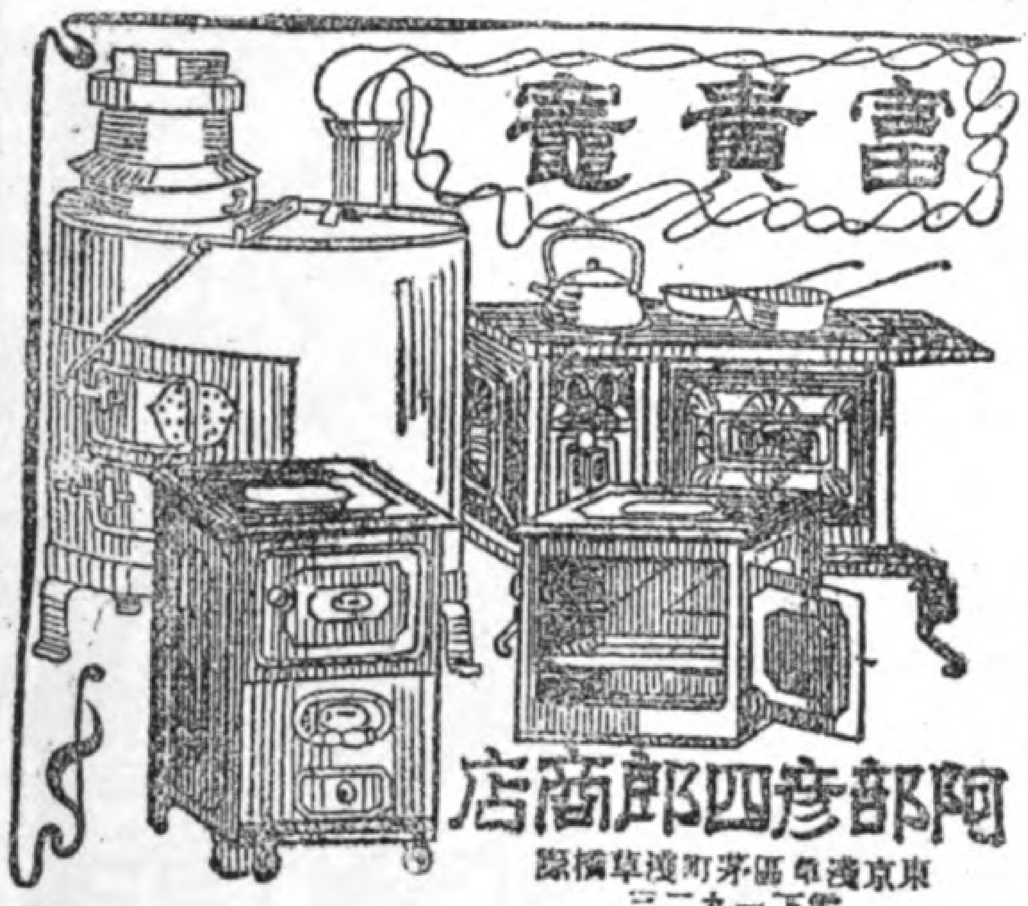
米國新最 石油暖爐 無煙 無臭
衛生と經濟に適し精巧優美を極め室内裝飾に美觀を増す

無煙無臭
石油瓦斯こんろ

一升の水五分間に沸騰す化學作用にて石油瓦斯に變じ僅の石油にて強大なる火力を生ず精巧美麗紳士卓上の使用に適す

洋食器具類一式 商品目録進呈

特許料理 輕便ストーブ 一名改良テンピは
輕便で完全に料理ストーブの効用を爲す特許テンピ
實用新案テンピ 金貳圓參拾錢 小金四圓五拾錢 大金六圓
凱旋紀念五二共進會に於て金牌受領



富貴竈
阿部彦四郎商店
東京淺草區茅町淺草橋際
電下一九二三

資本金千八百萬圓
東京京橋區木挽町
株式會社 十五銀行
電話新橋 一五三〇番 三〇番 三一九三番
同日本橋區新乘物町
同 日本橋支店
電話浪花 一九〇一番 三二七四番 三五〇八番
一定期預金 六ケ月以上年五分
一當座預金 日歩七厘以下
一特別當座預金 同 壹錢

東洋一 製造大販賣 卸小賣
夜具 蒲團類 綿ざぶとん
●上等下等澤山あり御好次第山の如し
街鐵も外堀線も小川町東明館前下車を乞
東京神田區表神保町
矢田商店
電話本局二千十八
市内無賃配達
諸官省御用
●綿質保險附 ●確實大安賣 ●正札引なし

醫家 處方調劑

調劑之正確
一醫師ノ處方箋ニ係ル調劑ハ極メテ丁寧綿密ニ且ツ迅速ニ調劑ス
一當藥局ハ既ニ久シク醫家諸彦ノ御信認ヲ辱フシ尚東京郵便局ノ指定藥局タルノ光榮ヲ有ス
一藥局トシテノ設備又大ニ完全シ醫家ノ處方箋ニ依ル調劑ハ必ズ主任藥劑師之レヲ擔任ス
藥品之純良

東京神田今川小路(電車停留場前)
電話本局一五一八
尾澤純良堂
藥劑師 大西橋三
藥局主任藥劑師 田中利弘

最上醬油 キハク印
於臺路易博覽會 名譽大賞牌受領
釀造元 千葉縣野田町 茂木七郎右衛門
電信略號(キハク)又(ハク)
東京支店 日本橋區小網町三丁目 中野長兵衛
電話浪花五七七番

キハク印
醬油の味がよくて調理にかなつて居ると云ふことは皆さん一般の評判ですどーか其あぢのよくてそして經濟であると云ふことを御ためし願ます

洋織物 裁縫物
毛布 敷物類
何なりとあり有まいと御思召品も御尋下さい

松澤ホーサン石鹼
○色白く艶をだす最良之化粧石鹼(大形廿錢小形拾錢)
○到る所に販賣す(こせ物)あり松澤ホーサン石鹼と御買求を乞ふ
東京本石町四丁目
芳香藥種問屋
ムスク香水本舖
松澤常吉
(振替貯金四四四七番)

東京に於て賣る物品は何品にても最も廉價に最も正確に最も迅速に最も親切に買入に盡力すべきに付き春を迎へん爲の用意の品物は最も速に申込まれたし

東京買物用達合名會社
東京市神田區
(電話本局八九四)

於五二共進會
進歩金牌受領
はだのあれ にきびも ひびも
二八水
東京馬喰町
長瀨富郎

女學通信教授

●本會は女子教育の普及發達を圖らんが爲に諸名家の講義に係る女子必須の諸學科を網羅せる女學の講義錄を發行して會員に配布す●小學より進みて高等女學校に入學し難き事情ある女子達は本會に入會して家庭に居ながら諸學科を講習し以て女の道を辨へ給へ●本會の基礎確實にして講義錄の有益多趣なることは夙に世の定評あり昨年冬本會創立十週年に當り畏くも 皇后宮より御歌特賜の恩命を蒙れり●當月より第七回目の前期講習會を開く此際とく入會申込あれ●詳細の會則希望者はハガキ又は電話にて請求あれ直に送呈すべし

十一月二十日 初卷發行

東京市麴町區下二番町卅七
大日本女學會
電話番町一三三〇

新學期を開き會員を募集す
○本會創立以來十二年會員四萬人に達す○月謝金廿五錢入會金不要

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

年末年始御進物用最適當品

洗用ワッセル

◎此ワッセルは油じみ油あか如何なる汚れても揉ずに必ず落る石鹸曹達の如く布を損傷せず染色を褪さず費用と手數を省く經濟上有利なる日用品であります

◎用法は湯一升に二匁（小杯へ半分餘）の割合にて溶解し洗濯物を凡二時間浸し揉ずに置き後湯又は水にて洗へば自然に脱ますシヤツの如きは（拾貳ヲ入一本にて貳百枚は必ず洗へます御婦人の髪は一匁五分を一升餘の湯に溶解してかもじを洗ふ用に揉ずに洗べし左れば玉子で洗た樣になります又食器臺所道具を拭き掃除にも有効です

定價　拾貳ヲ入　金拾五錢　六ヲ入　金八錢　袋入二錢

芳香御肌洗粉ワッセル

◎此肌洗粉ワッセルは當時歐米各國貴族社會に流行する芳香類を加味し製造せしものなれば朝夕御使用の方は香氣馥郁として肌持々すべおしろいしたを用ひずして御化粧が出來ると妙なり

定價最上 金七拾五錢 金貳拾錢　普通 五拾錢 六錢　參拾錢 三錢　拾七錢

東京市京橋區三十間堀三丁目　電話新橋一七一二

英國製ワッセル日本一手販賣元　御肌洗ひこ芳香ワッセル製造元　三友商會

商品概要　金銀時計類及附屬品。眼鏡類寶石入指環。金銀盃茶器類。洋食器。七寶花瓶和金屬美術裝飾品各種

商品目録　案内表　無代送呈

大勝堂

東京銀座通尾張町　電話新橋二二六四番

凱旋紀念五二共進會場出品陳列品之内

宮内省御買上の榮を蒙る

登録商標　雅致高尚生粹特色　半ゑり帯揚類

受領　進歩金牌　半襟　凱旋紀念五二共進會褒狀授

受領　進歩銀牌　襟飾肩掛　與式に於て

○秋春用レース、フレンジ　都花織旭織　縮緬類絹毛織多數
○季節向肩掛
○祝ひじめしごき○延掛○守巾着○帛紗類
○羽織肩裏○長襦袢○同袖○下締伊達巻類
○男方用襟巻○ネクタイ○京都召前掛男女方
有効受賞獨特まげ形ゑり治形○すゞめ形
顔肌美白洗粉チエリー發賣元　おろし小賣
絹天半ゑりしぼり形地原販賣所　おろし賣は廉價御相談

凱旋紀念五二共進會場内正門に向階下右入突當　ゑり治

新橋竹川町十二電話新二〇二七　本店　ゑり治

神田表神保町電話本局九五二　支店　ゑり治

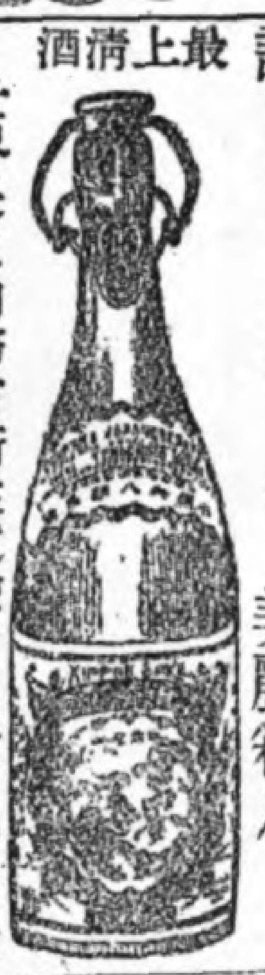
新橋際博品館内階下　ゑり治出張店

壜詰最上清酒

大日本優等清酒

世界長

御進物用は美麗箱入



世界長は内務省衛生試驗所に於て、試驗を經たる最良清酒なり

世界長は器械口瓶詰なれば體裁最も美麗にして用量を定めて飲用するの便宜あり

壜詰

一升入　四合入
貳合入　一合入の四種

東京日本橋區堀江町四丁目（通稱てりふり町通り）

發賣元　高橋商店　電話浪花一五六一番

ちゞらぶの赤毛の人に告ぐ

〇二瓶一組小五拾錢〇同大壹圓〇送料拾錢

該液劑は獨逸國博士の發明に係り弊店多年の試驗劑を加味せし新藥にして僅か十分間にて染上り黒き光澤を發し美麗なるは烏羽の如し而して永久禿げる事なし其理由は毛髪中に硫黄質を含めるものにて此の硫黄質と液劑と毛中にて化合酸化硫黄となりて黒色を表出するものなれば禿る疑なきは明白なる事實にて皮膚に無害なるは弊店保證致ます

毛染所　東京京橋本材木町三ノ四　岡田藥店

從四位淺田宗伯先生直傳

淺田飴

良藥にして口にし甘し

定價　金五拾錢　金參拾錢　金貳拾錢　金拾錢

本品全國到る處の藥店に販賣す

本家　東京神田鍛冶町　大阪北久寶寺町　堀内伊太郎

帝都唯一受賞袴

小町印學生袴

日本橋區彌生町

御部　永井本店（電話浪花一八四一番）

神田區南神保町

小賣部　永井支店

御婦人小間物

一式御好自在

意匠斬新

くし、笄、かんざし

リボン、ヘーアピン、サイドゴム

美術小間物商　三ッ井屋

東京市神田區須田町十番地　電話本局二〇七六番

支店（神田神保町東明館内　新橋ぎわ博品館内　五二共進會階上）

餅搗き煤拂ひ前になすべき人に婦世界よ見

婦人世界

十二月一日發行　拾貳號

一冊十五錢　郵税一錢五厘　半年分九十錢　郵税共一圓拾錢

◎婦人日常生活法（大評判大喝采）村井弦齋
▲月經時は如何にすべきか
▲下痢は如何に手當するか
▲頭痛は如何に手當するか
▲齒痛は如何に手當するか
▲大醉は如何に手當するか
▲火傷は如何に手當するか
▲切創は如何に手當するか
▲汽車は如何に乘るべきか

◎わが良人禁酒實驗
△わが良人は如何にして大酒を廢したるか　小野雪子

◎買物（星つね子）
△最も安全なる買物方法

◎岡田みつ子の面影（性行）

◎後藤男爵夫人處世實驗

◎障子張換へ方
△糊は如何に溶くべきか
△紙質は如何に選ぶべきか

◎妊娠の生理（伊庭學士）

◎寒氣に對する育兒の注意　醫學博士加藤照麿

◎弦齋夫人料理談
△大根は如何なる効あるか
△大根は如何に料理するか
△豚は如何に料理するか
△澤庵は如何に漬けるか

◎ひびしもやけの豫防法（遠山學士）

婦人世界編輯局編纂

明治四十年家庭日記

毎日の豫定欄あり毎月の始に上欄に重要なる出來事の記入欄あり且つ毎月の終りに季節料理法時候衛生談を掲ぐ

◎女學生のために特に通信日記交際日記を添へ又附録には育兒法看病法

◎妻君のために家族表親戚表雇人表あり家政進物好適品ありまた

◎家庭日記は一面に於て育兒日記病者日記。進物贈答日記。知人住所録。裁縫寸法控數一頁を添ゆ

◎家計簿記帳を兼ね一月毎に賄帳日用帳計算表豫算表現計對照表あり

總クロース金字入美本八百五十頁　價五拾錢　郵税拾錢

東京南紺屋町十二番地　實業之日本社　郵便振替口座六參貳番　電話新橋八七番　賣捌所全國書店

登録商標

羽おり紐　帯しめ

市內一流呉服店並小間物店にあり

定價表御申越次第直ちに呈送仕候

東京日本橋區通油町　依竹組紐舗　電話浪花一五六

消化新藥

醫學博士井上善次郎氏の實驗報告に曰く　胃腸障害は往々疾病誘發の根元となり、又疾病治癒の轉居を遲鈍ならしむ、而して胃腸障害の内、澱粉を不消化に因するもの甚だ多し。殊に米飯を常食とする本邦人に於て然りとす。之を救濟する一に完全なる澱粉消化藥あるのみ、此目的に向て、余は高峯博士の發見に係るタカヂアスターゼを使用し、好果を收め、此種の製劑中最優等のものたることを確信す。

醫學博士栗本東明氏の實驗報告抄録　高峯博士發見のタカヂアスターゼが唯一の澱粉消化藥として著大の効力を有するとは業に既に世の定評あり今や予はタカヂアスターゼが結核患者の其實驗に基き消化障害に對する著效を確認すると共に此種の患者に毎に之れが服用を勸告する者なり

錠劑粉末各大小容器入各地藥舗にて販賣す模造品あり必ず高峯氏タカヂアスターゼと乞御指定。實驗報告集は無代進呈

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

○都足袋ハ曩ニ農商務省ニ出願シテ登錄商標專用ヲ得タル物ナリ
○都足袋ハ外觀優雅ニシテ現ニ都人粹士ノ歡迎ヲ受ケツヽアリ
○都足袋ハ踵ニ縫目ナク衣服ノ裾ヲ傷フコナシ

都足袋粹乃友

○都足袋ハ製作ニ至大ノ注意ヲ拂ヘリ故ニ具合適良ニシテ縫目ノ破綻スル虞ナシ
○都足袋ハ材料最モ優逸ニシテ經濟上尠ナカラザル效力ヲ有セリ

三重足袋君の益

○三重足袋君カ益ハ甲三重底三重ナルヲ以テ優ニ群ヲ拔クノ耐久力ヲ有ス
○三重足袋君カ益ハ甲三重底三重ナルヲ以テ冬季ハ寒ムサヲ防グ効力ヲ有ス
○三重足袋君カ益ハ甲三重底三重ナルヲ以テ脂肪ノ滲出ヲ遮ギリ體溫ヲ保ツノ効力アリ

龜屋

東京日本橋室町三丁目 龜屋足袋店

電話本局一七二一番 宮内淸兵衛 (略電信カメヤ又カヤ)

北米合衆國紐育市

シンガー裁縫機械會社

東京支店 東京銀座三丁目拾貳番地
大阪支店 大阪心齋橋筋二丁目五拾六番地
長崎支店 長崎大工町六番地
東京支店名古屋監督店 名古屋玉屋町九十六番

「シンガーミシンは世界中一番高價なミシンですが輕くて使ひ易くて、奇麗で、機の構造の完全して居ることも亦世界一です、僅か五圓、拾圓許りの差ですから、同じく買ふのなら始めからシンガーミシンを御買いなさい、經驗上御すゝめ致します」。……とはミシンに委しき夫人方の實驗談!

斯くの如く洋服店、裁縫店、足袋、シヤツ商、靴商に大好評を得たるシンガーは今や家庭の第一要具として全國の婦人に歡迎せられつゝあり、而してシンガーミシン專門の裁縫學校も漸次增加し、東京のシンガー裁縫女學院の新築工事は本年七月中に既に落成しました…………

(定價表目錄等御申込次第進呈す)

ミシン裁縫專門教授

(規則書進呈、郵劵封入御申込アレ)

東京麴町區有樂町壹丁目五番地 シンガーミシン裁縫女學校
大阪東區北濱二丁目六番地 シンガーミシン裁縫女學校

美術貴金屬袋物商

東京日本橋區人形町通り

澤田治助

長電話浪花二五六九番

第二回新學期開始

會員大募集 目下入會の最好機

▲事情があつて高等女學校に入る事が出來ぬ人の爲めに『女學講義錄』を發行し僅に二ヶ年間に高等女學校程度の敎育を完全に正則に授けます

▲世間の講義錄は乾燥無味で面白味がありません。本會講義錄は此點に注意し、諸學科の講義何れも面白く極めて分り易いやうにし、且つ有趣有益なる數十頁の雜錄の外に、美くしい家庭小說を每號附錄とします

▲本會の講師は皆な斯道專門の大家で且つ敎育に充分經驗のある方のみですす講義は只親切と云ふ事を主として丁寧懇篤に說いてありますから本會々員は親しく講師の膝下に在りて講義を聞かれると同じ事です

▲本會講義錄は右に述べし通り最も完全したものでありますが、會費は極めて少額で都會一ヶ月の遊學費で優に全期を終る事ができます。

大日本淑女學會

高等女學校程度の講義錄發行

批評一斑

▲中央新聞評 講述何れも平易にして親切を極めたれば初學の講習に最も可也
▲毎日新聞評 米國の通信敎授法を參酌せるもの文字平易說明懇篤を盡くせり
▲二六新聞評 高等女學校の全科程を講了すべく各講述者の態度頗る着實なり
▲日々新聞評 講義は總べて平易と親切とを勉めて毫も難解の憂なきに似たり
▲都新聞評 講義平明用意親切なれば數多き女學雜誌中一領域を拓き得可し
▲報知新聞評 講義錄多しと雖も實益と趣味と併て有する事斯くの如きは稀也
上掲の批評を御覽にならば本會講義錄の眞價がお分りになりませう

▲規則書▼ 端書にて申込あれば直に郵送す可し

◉東京神田南甲賀町 大日本淑女學會 (電話本局三千四番)

歳末の御贈答品

として最適當せる商品切手の外

香油、香水、白粉、石鹼、手巾、肩掛、ボーア、襟巻、半襟、帽子、帛紗、風呂敷、銀貨入、など種々取揃置申候間澤山御注文被下度奉願上候。敬具。

尙地方より御注文の案内として今般『衣裳』と題する美麗なる冊子、印刷致候に付御一報次第早速送呈可申上候

東京市日本橋區駿河町

三越呉服店

振替貯金口座番號三百番

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

東京市麴町區錢瓶町（常盤橋内）
日本興業銀行
電話本局｛三、三〇〇番 四一一番 （特）三三七番 一〇〇二番
資本金壹千七百五拾萬圓
營業科目
一　擔保附社債に關する信託業務
一　有價證券其他貴重品等の保護預
一　有價證券の賣買元利金の支拂及び取立
一　地方債、社債、株式等の發行募集事務
一　各種の信託事務
一　國債證券、地方債證券、社債券、株券の擔保貸付及手形の割引
一　國債證券、地方債證券、社債券の募集又は引受
一　法律規定に依り設定したる財團を抵當とする貸付
一　定期預金、當座預金、特別當座預金

東京市日本橋區通一丁目
合名會社 森村銀行
電話（特）本局六七三番
定期預金　六ヶ月以上　年五分五厘
當座預金　百圓に付日歩　八厘
特別當座預金　同日歩　壹錢壹厘

東京市日本橋區小舟町三丁目
株式會社 第三銀行
電話浪花 一四一二番 浪花 四五一番
預金利子
定期預金　六ヶ月以上　年五分
當座預金　百圓に付日歩　八厘
別口當座　同日歩　壹錢
全國送金無手數料
其他銀行一般の業務を取扱ひ候

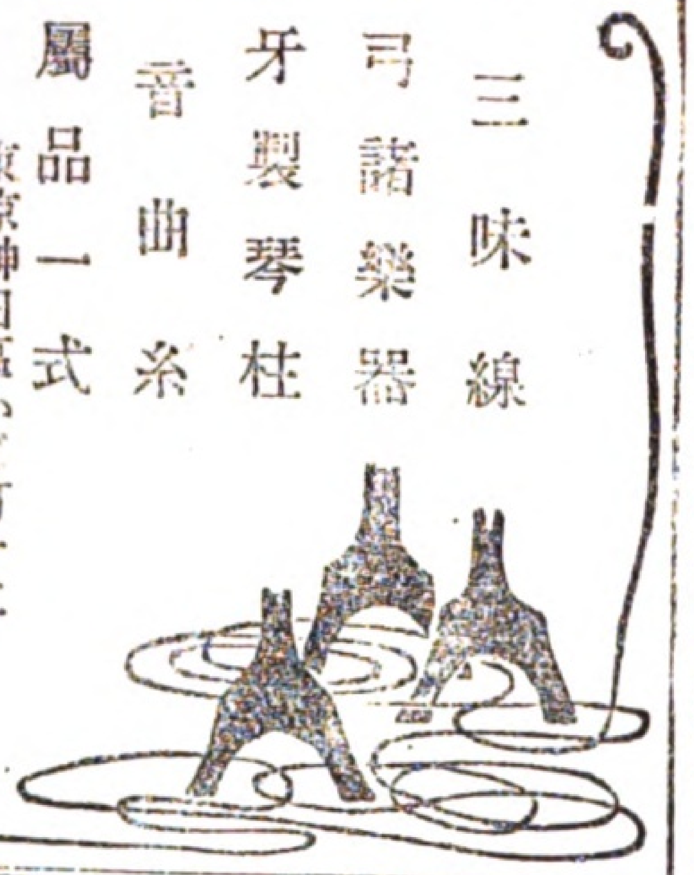
コスモス乳菓
小兒ノ發育ニ效用アルハ經驗者ノ最モ證明スル所ナリ
見本ヲ御希望ノ方ハ郵便切手三錢封入シテ東京市下谷區御徒町三丁目

試驗用ハ郵便局私書函第五十八號
コスモス乳菓部ヘ御申込アレバ無代價ニテ進呈ス
代理店橫濱市山下町廿八番館
米國貿易商會

◎牛豚肉販賣及
西洋料理◎
● 品質佳良の肉類廉價に販賣候
● 配達は迅速に且つ正確に致候
● 滋養と風味の西洋料理調製候
● 西洋料理出前は格別相働き候
● 米店は精撰の白米廉價販賣候
● 御注文は電話又は葉書て願候
小石川表町廿二番地　電話番町六五九　西川本店
本郷區駒込東片町五番地　電話下谷二二七一　西川支店
小石川表町十一番地　電話番町一四六一　西川洋食店
小石川表町十八番地　米穀商　西川嘉門

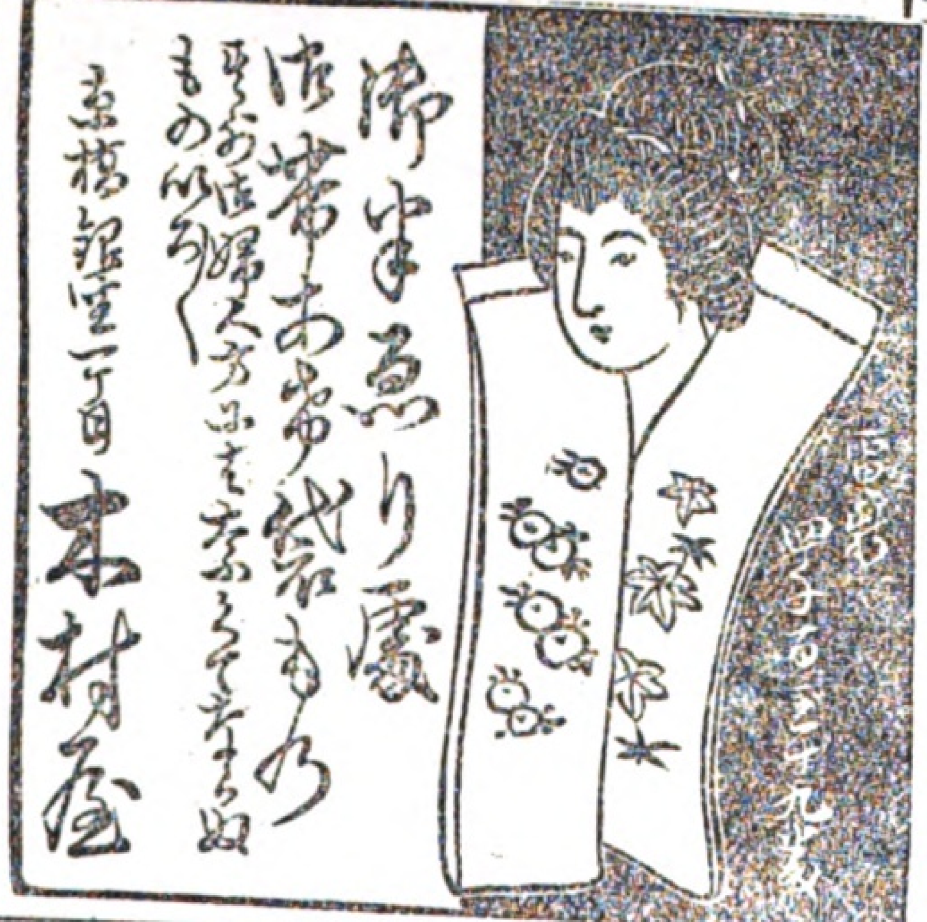
袴乃親王

東京日本橋區長谷川町
卸部　美濃磯本店　電話浪花二八五九番
本郷區本郷五丁目
小賣部　美濃磯本鄉支店　電話下谷二四一五番
淺草區諏訪町
美濃磯淺草支店
日本橋區佐内町
美濃磯佐内町支店
神田區小川町
美濃磯神田支店
深川高ばし際
美濃磯支店
芝區新櫻田町
小田商店
牛込區神樂町一丁目
伊澤商店
四谷區傳馬町一丁目
伊澤支店

琴　三味線
胡弓　諸樂器
象牙製　琴柱
撥　音曲糸
附屬品一式
東京神田區かじ町十二
樂器商　菊屋總本店　電話本局二四四九番
分店　本郷區本郷二丁目廿番


美人ムスク石鹼

此金形ハ擬物ナキ標ナリ
美人ムスク白粉
東京市日本橋區橫山町二丁目
輸入元　桑原花生堂



正札附陳列場
西洋小間物
帽子各種
婦人用小間物
中久商店
東髮用具
内外化粧品
玩具文具
東京神田小川町通り
裏神保町一番地
來ル十二月一日ヨリ五日マデ
年末大賣出
商品豐富御進物品多種

醫院案内

院長　醫學博士　榊順次郎
副院長　醫學士　久保德太郎
婦人科產科榊病院
東京麴町三番町廿三（電話番町三九五）

ドクトル
内科小兒科特に呼吸器病
麴町はやぶさ町二十八番地
川瀨元九郎
電話番町八二三番

水原產科婦人病院
○所在神田區猿樂町十二番地（電話本局千八百〇九番）○外來診察午前中○入院往診隨時○同院に私立生婆學校の設あり

眼科專門
診察時間　午前七時より十二時午後三時より五時迄
ドクトル　宇良田唯子
▲每月第一日ハ診料藥價共無料

小兒病診療
宅診午前　往診午後
淺草區福井町貳番地
醫學士　内田愼太郎
●電話下谷七一八番

院長　醫學士　鳥山南壽次郎
鳥山内科院
京橋區鎗屋町十一番地
電話新橋千七百四十六番
午前診察　午後往診

產科婦人科專門
ドクトル　樋口
繁次歸朝後於本院診療に從事す
二各科診察從前の通
東京病院
芝愛宕町　電二六四　二六二〇

神田區西今川町三番地（電話本局三〇一九）
内科病特に腦脊髓神經疾患
院長　ドクトル　メヂチーネ　峰秀世
峰内科醫院

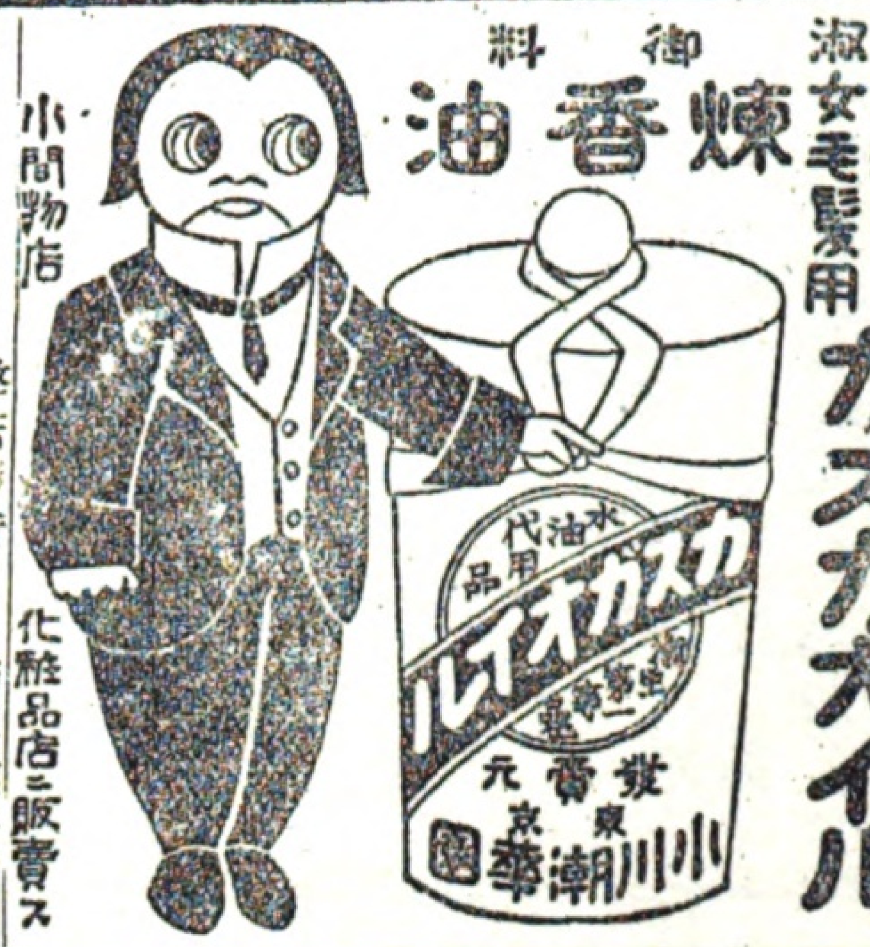
東京日本橋區濱町三丁目七番地
產科婦人科　楠田病院

東京神田區美土代町三丁目十七番地
午前宅診　午後往診
内科一般　板垣亭
電話本局貳千九百七十番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人廣告取扱

京橋區數寄屋橋外　弘報堂
神田三河町　博報堂
京橋區南紺屋町　一星堂
京橋區南鍋町　秀逸社
日本橋區上槇町　萬年社
日本橋區箱崎町　春風舍
京橋區宗十郎町　正路喜舍
京橋區日吉町　帝國通信社
同區彌左衛門町　京華社支店
同區南鍋町　廣告社



貴顯紳士
淑女毛髮用
御料
煉香油
カスカオイル
化粧品店ニ販賣ス
小間物店
發賣元　東京　小川潮華園

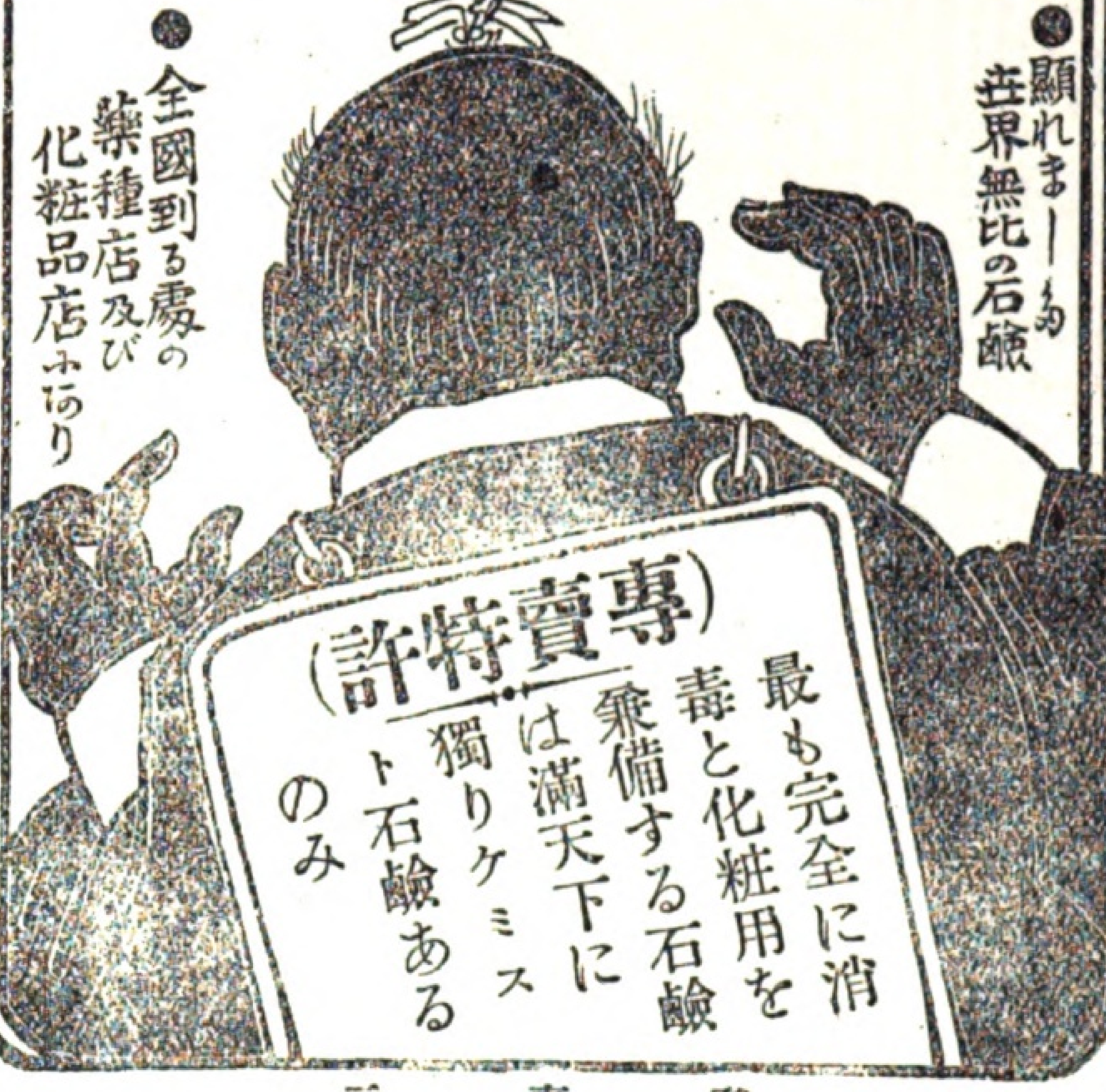
登錄商標 吉

弊店儀昔より袴專業各位の御引立を蒙御厚禮奉申上候
○絹木綿毛織等何袴にても特別大勉强仕候猶今般新案登錄金具附紐止袴販賣仕候此袴ニ男女の御貴君樣ニ御便利に候間何卒御袴御用向奉願上候

芝區日蔭町通源助町十三
住吉屋兵衛
電話新橋千五十六

冬物續々輸着
●新着英國製
●更紗各種
●小兒上衣
●羽根フトン
●ボアー（ネグレット）
●婦人小兒用帽子
●キヤンバス、及ビ
●アイスウール各色
●肩掛、長卷、膝掛
●旅行用化粧道具
●外西洋小間物一式

東京市京橋區銀座三丁目
伊勢與
三枝小賣店
電話新橋三九二七番



CHEMISTSOAP
ケミスト石鹼
（衛生家の一日も欠く可からざるもの）
御試用の上該品の特長を知り給へ
●化粧料
●消毒用
●全國到る處の藥種店及び化粧品店にあり
●顯れまーる
世界無比の石鹼
（專賣特許）
最も完全に消毒と化粧用を兼備する石鹼は滿天下に獨りケミスト石鹼あるのみ

發賣元
東京日本橋區本町四丁目電話本局（四一九一）（三〇一八）
島久商店

農村の幸福法

愛國婦人記者　手島益雄氏著

二百ページ
定價金三十錢
郵稅金四錢

本書は著者が專ら研究せる家庭問題を基礎として農家の幸福を增進する爲め、執筆せる者にして本編を上下に分ち上編は家庭、敎育、宗敎、公共、產業、組合、衛生、慈善、會合、娛樂等の各章に別ち最も新らしき着想を以て丁寧親切に說述し、圓滿なる家庭の幸福を得るの方法より、進んでは一町一村の幸福を計る事に及ぶ、第二編は「如何にせば貧乏になれるか」との題目の許に寓語を使用し、巧みに家庭の弊害を諷し、以て富裕なる家政を營む方法を示し「臺所の改良方法」「家庭曆の作り方」に就ては著者の苦心による新方法を掲げたり而て文章は最も平易なる言文一致體を以てものし、猶總振がなを附し數葉の繪畫をも挿加へたれば、家庭に於ける主婦は素より其主人に於ても苟も家を善く齊へ國を治め一家幷に一國の幸福を計んとの希望を持つものは本書を繙かさる可らす

發行所　東京本鄉東片町百十一番地　新公論社
取次所　東京麴町愛國婦人會內　愛國婦人發行所

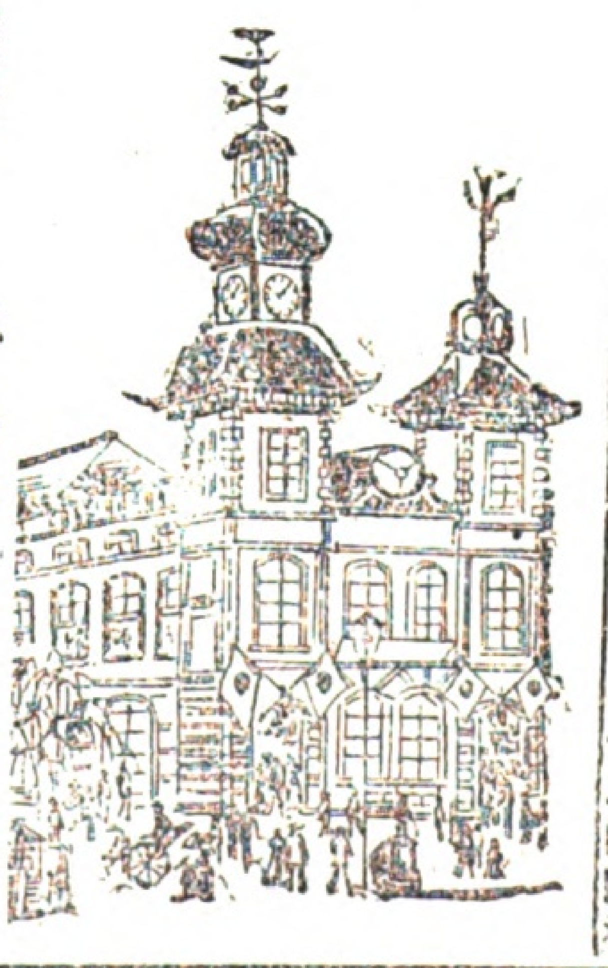
各女學校
御用
附屬品幷に造花器械類一式

東京市日本橋區橫山町一丁目十六番地
天野卯兵衛
電話（長）浪花一六四三番

營業目錄御入用なれば愛國婦人を見てと御書添へ御申越被下度候

歲暮大賣出し
來ル十二月十六日ヨリ三十一日マデ
當日粗景呈上
一月一日二日三日四日年玉進呈

東京新橋角
電話新橋（一六五二）（二三六一）



帝國博品館

金銀盃類

秋の月にも春の花にも盃ならして何んの樂しみかあらん殊に戰後功を論し賞を行はるゝにあたり祝盃として用ゐらるゝには又ふさはしき意匠の盃なかるべからずまた賞品として御授與せらるゝ盃は弊堂のものに限るへし

宮內省御用達
東京市下谷池の端仲町
玉寶堂
電話下谷（特九六五番）（一二四四番）

明治三十九年十二月五日發行（每月五日二十日二回）
（定價金三錢一ヶ月三十六錢　郵稅不要廣告料一行金六拾錢）
發行兼印刷人　山澤俊夫
編輯人　手島益雄
發行所　東京麴町　愛國婦人發行所
印刷所秀英舍工場

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人第百拾七號附錄

明治三十九年十二月五日發行、毎月二回五日廿日)
明治三十五年三月二十七日(第三種郵便物認可)

韓國支部第一回總會式場光景

發行兼印刷人 山澤俊夫 編輯人 手島益雄 發行所 愛國婦人會内愛國婦人發行所
印刷所 東京市牛込區市ヶ谷加賀町二丁目十二番地 株式會社秀英舍第一工場

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN